後見裁判所ハ猶小ナル範圍ノ管理ニ在テハ若シ第一年度ニ係ル計算ヲ済了シタルトキハ左ノ規定所ヲ一年ヲ超エル長キ時間ニ係ル計算済了ノ果成ス可シト規定スルヲ得此時間ハ三年ヲ超エルヲ許サス

計算ハ收入支出ノ整理集輯ヲ合シ財産ノ減殺、增殖ニ付テノ報告ヲ掲ケ並ニ証書ヲ具ヘタルモノタル可シ

商人ノ簿記ヲ以テスル取得業務ノ管理ノ場合ニ在リテハ其帳簿ヨリ抜萃シタル貸借對照表ヲ以テ計算ト為スニ足レリトス此レ正後見裁判所ハ帳簿及ヒ其他ノ証書ノ提示ヲ求ムルヲ得

計算ハ若シ監査後見人カ任セラレタルトキハ後見裁判所ヘ呈出スル前先ツ監査後見人ニ其檢査ヲ委ヌル為メ財産成ル之ノ証明ヲ為シ之ヲ提示シ監査後見人ノ其檢査ニ由リテ生シタル結果ノ注記ヲ具フ可シ

第千六百八十八條　後見裁判所ハ計算ヲ計算ニ適準シ及ヒ事項ニ照依シテ檢査ヲ為シ又ハ

四十ル限リハ其計算ノ更正及ヒ補正ヲ為サシ
ムル可シ
後見人又ハ被後見人ノ未完結ナル請求権ニ付
テハ訴訟手続ニ於テ裁決セラルル可シ此請求権
ハ後見ノ存続時間中尚ホ被後見人ニテモ後見
人ニテモ裁判所手続ニ依リ之ヲ主張スルヿヲ
得
第千六百八十九條　後見裁判所ハ特別ノ情況
有ル時ハ其ノ年后ノ所ヲ後見人ハ自己ノ管理ニ
属スル被後見人ノ財産ノ為メ之ニ担保債行為
ヲ要成スル可シトスルノ年后ヲ発スルヿヲ得
後見裁判所ハ此担保債行為ノ種類及ヒ範圍ヲ
自由ノ見込ヲ以テ定ム
後見裁判所ハ後見人ノ職務ノ終止シタルニ際
サル間ハ何時タリトモ其担保ノ増加減殺又ハ廃
罷ヲ命スルヿヲ得
後見裁判所ノ命令ハ担保ノ設定変更又ハ廃罷
ノ告ノ四十ル被後見人ノ協力ヲ代補ス
担保債行為ノ費用並ニ此債行為ノ変更又ハ廃
罷ノ費用ハ被後見人ニ於テ之ヲ担当ス可シ

第四款　不羈後見

第千六百九十條　被後見人ノ父並ニ正嫡所生ノ母ハ左ノ年令ニ到ル迄自己ノ拘名シタル後見人ノ外監査後見人ヲ任スル可ラストスル年令ヲ告スルコトヲ得又右ノ者等ハ第千六百六十九條ニ依リ監査後見人ノ認諾又ハ之ニ換ヘ後見裁判所ノ認諾ノ如キ所ノ権利行告ニ付テハ監査後見人ノ認諾モ後見裁判所ノ認諾モ要セス又及ヒ後見人ハ被後見人ノ金銭ノ敬用ノ告メ監査後見人ノ認諾モ後見裁判所ノ認諾モ要セス、第千六百六十四條第二項第五号及第千六百六十五條ノ場合ニ於テモ亦敬用ノ第千六百六十六條第二項ニ掲ケタル規定ヲ以テ果成スルヲ要セストスル年令ヲ告スルコトヲ得此等ノ年令ハ監査後見人ヲ任スル可ラストスル年令中ニ包含セラレタリト看做サルル可シ

第千六百九十一條　被後見人ノ父並ニ正嫡所生ノ母ハ左ノ年令ニ到ル迄自己ノ拘名シタル後見人ハ後見ノ存続時間中ハ計算ヲ済了スルノ義務ヲ負フ可ラストスル年令ヲ告スルコトヲ得此ノ

如キ年合ノ場合ニ在テハ後見人ハ毎二年ノ満了ノ後被後見人ノ財産ノ現時ノ成立ヲ表示スル通覧表ヲ後見裁判所ニ呈出スヘシ此通覧表ハ若シ監査後見人ノ任セラレタルトキハ其呈出前先ツ監査後見人ニ其検査ヲ受クル為メ財産成立ノ証明ヲ告シテ之ヲ提示シ監査後見人ノ其検査ニ因リテ生シタル結果ノ註記ヲ具フ可シ

後見裁判所ハ左ノ年合即チ後見人ハ二年間ヲ超エル長キ中間時間ノ満了後通覧表ヲ呈出ス可シトスルノ年合ヲ定スルヿヲ得又後見裁判所ハ特別ノ情況有ルトキハ左ノ年合即チ後見人ハ以後ノ規定ヲ告スニ至ルマテハ一般ニ通覧表ヲ呈出スルヿヲ要セストスルノ年合ヲモ定スルヿヲ得

第千六百九十二條　被後見人ノ父並ニ正統所生ノ母ハ左ノ年合即チ自己ノ掛名シタル後見人ハ第千六百七十條ニ遵準シ有價証券及ヒ高價物ヲ寄託スルノ義務又ハ名記名証券ヲ被後見人ノ名ニ書換エルノ義務ヲ負ハシメラル可

ラス又右ノ後見人ハ第千六百八十九條ニ準シ相續債務ヲ限定シタル ノ義務ヲ負ハシメラルヽ可ラストスル年令ヲ告スヽヿヲ得

第千六百九十三條 第千六百九十條乃至第千六百九十二條ニ掲ケタル父又ハ母ノ年令ニハ第千六百三十六條ノ成規ヲ準用ス父ノ年令ハ母ノ年令ニ先行ス

第千六百九十四條 後見裁判所ハ第千六百九十條乃至第千六百九十二條ニ掲ケタル父又ハ母ノ年令カ之ヲ遵守スルニ因リテ被後見人ノ利益ニ顕著ナル危險ヲ生スルノ恐レアル可キ時及ヒ其恐レアル久度ニ限リ此年令ヲ無効ト告スヽヿヲ得

第千六百九十五條 若シ被後見人カ相續ニ依リ、贈遺ニ依リ又ハ遺産義務部分トシテ取得スル財産ノ目的物ニ関シテ遺産者カ未期意思ヲ以テ分ニ依リ財産目録ノ調示ヲ禁止シタルトキハ後見裁判所ハ第千六百五十九條ニ照準シ後見人ノ任務ヲ呈出スヿヲ財産目録ヲ封印スヿヲ此封印ハ後見人ノ求メニ依リ其面前ニ於テ之

ヲ果成スヿヲ

後見裁判所ハ単ニ特別ノ事由ニ依リテノミ右財産目録ノ合有ヲ識知スルヿヲ許サル此事由ニ付テハ後見人ハ豫メ其意見ヲ聽カルヿヲ

財産目録ノ閲示ノ禁止ハ後見人ヲシテ此禁止ニ係ル目的物ニ関シ後見ノ存續時間計算ヲ御了スルノ義務及ヒ財産成立ノ証覧表ヲ呈出スルノ義務ヲ免カレシムル

第一項乃至第三項ノ成規ハ若シ第三者ヲ被後見人ニ生存者間ノ権利行為ニ依リテ財産ノ目的物ノ贈寄シ其贈寄ノ深贈寄シタル目的物ノ目録ノ閲示ヲ禁止シタルトキハ之ヲ準用スベシ

此目録ノ合有ヲ識知スル為メニハ第三者ノ生存スル限リハ其承諾カ必要ナリ又之ヲ拒ミシトキハ

第五款　後見人ト被後見人トノ間ニ於ケル義務　後見裁判所ノ責任

第千六百九十六條　後見人及ヒ監査後見人ハ自己ノ負担スル義務ニ関シテハ尊属家父ノ注

意ヲ用ユルノ責ニ任ス

若シ二人以上ノ者カ責任ヲ負フヘキトキハ其者等ハ各同債務者トシテ其責ニ任ス

若シ監査後見人カ後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ又ハ共同後見人カ共同後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ単ニ監視義務ノ敷損ニ関シテノミ責任ヲ負フヘキトキハ此二人ノ義務者ノ相互間ノ関係ニ於テハ損害ヲ加ヘタル者カ一人ニテ義務ヲ負ヒタリト看做ス但第三百三十八條ノ成規之カ為メ害セラルヽ事アレ

第千六百九十七條　若シ後見人カ第千六百六十四條ノ成規ニ依リ自己ノ責ニ帰スル被後見人ノ金銭ノ放用ヲ延滞スルトキハ其後見人ハ延滞ノ時点ヨリ起算シ放用スヘキ金額ニ利息ヲ付スルノ義務ヲ負フ若シ後見人カ被後見人ノ財産ノ目的物ヲ自己ノ利益ニ支消シタルトキハ其後見人ハ支消ノ時点ヨリ起算シ支消ノ当時ニ於テ目的物ノ有セシ價額ニ利息ヲ付スルノ義務ヲ負フ

尚ホ他ニ法ル損害ノ賠償ニ係ル被後見人ノ請

求権ハ変更ヲ受クルヿ無シ

第千六百九十八條　支用ノ賠償ニ係ル後見人又ハ監査後見人ノ請求権ニ関シテハ第五百九十四條、第五百九十五條ノ成規ニ準用ス

後見人又ハ監査後見人ノ債務ニ属スルモノモ亦之ヲ支用ト看做ス

第千六百九十九條　後見人ハ職務ニ基キ報酬ニ対シ執行スルヲ例トス

監査後見人ハ後見裁判所ハ後見人ニ並ニ特別ノ情況ニ依リ監査後見人ニモ亦相当ノ報酬ヲ允許スルヿヲ得但此ノ如キ允許ハ被後見人ノ財産並ニ後見職上ノ業務ノ範囲及ヒ事目ニ依リ正当ナリト認ムル後見裁判所ハ将来ノ告メ何時ニテモ其允許ヲ廃罷シ又ハ変更スルヿヲ得後見裁判所ハ允許、変更又ハ廃罷ノ前後見人ノ意見ヲ聴クヿヲ要シ又若シ監査後見人ヲ任セラレタルトキハ監査後見人ノ意見モ亦聴クヿヲ要シ

第千七百條　後見人ハ自己ノ後見ノ終止ノ後自己ノ管理シタル財産ヲ被後見人ニ引渡スル

ノ義務及ヒ其管理ニ付キ計算ヲ済了スルノ義務ヲ負フ

後見人カ後見裁判所ニ對シ計算ヲ済了シタル分度ニ限リ此計算ヲ引用スルヲ妨レサルヿトス

第一項ニ掲ケタル計算ハ若シ監査後見人ノ任セラレタルトキハ接査ヲ受クル旨メ之ヲ此後見人ニ提示スヿヲ可シ監査後見人ハ其接査ニ因リテ生シタル結果ノ注記ヲ計算ニ具フヿヲ可シ監査後見人ハ監査後見ノ執行ニ付キ各個ノ区畫ナル報告ヲ告シ又告シ得ル限リハ後見人ノ管理シタル財産ニ付キ各個ノ区畫ナル報告ヲ為スヿヲ可シ

第千七百一條　計算ハ之ヲ監査後見人ニ提示シタル後後見裁判所ニ呈出スヿヲ可シ

後見裁判所ハ計算ヲ計算ニ適準シ及ヒ事項ニ照況シテ接査ヲ為シ監査後見人ヲモ包含セル当事者ヲ計算ノ收了ニ関スル審議ノ為メ召喚スヿヲ可シ此審議ニ於テ計算カ正確ナリト認セラルヽ限度ニ於テ其承認証書ヲ作成ス

可シ

第千七百二條　後見ノ任務又ハ執行ニ関シ自己ノ負担スル職務上ノ義務ヲ毀損スル後見裁判所ノ判事ハ第七百三十六條第一項第二項ニ照準シテ被後見人ニ基生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ負フ

第二款　後見ノ終止

第千七百三條　後見ハ被後見人ノ死亡及ヒ成年ニ達リテ終止スル外前下ノ如リ所ケ

第一　被後見人カ死亡シタリト宣告セラル、判決ノ確定下ト共ニ

第二　父母ノ推力カ父母ノ收益ノミニ制限セラレタル場合ヲ除キ被後見人ニ付テノ父母ノ推力ノ開始ト共ニ

第三　父母ノ推力カヲ父母ノ收益ニ止ムル制限ノ廢缺ト共ニ

終止ス

然レトモ生後ノ婚姻ニ因ル被後見人ノ承認ノ場合ニ於テハ被後見人ニ付テノ後見ハ被後見人ト被後見人ノ母ノ夫トノ間ニ於ケル爭訟ニ於

テ其夫ノ父タルヿカ法力ヲ以テ確定シタル時
点ヲ以テ又ハ後見裁判所カ父タルヿノ廃罷ヲ
宣スル時点ヲ以テ始メテ終止ス後見裁判所ハ
若シ被後見人ノ母ノ夫カ父タルヿヲ承認シ後
見裁判所カ其承認ノ豫定條件ヲ存在スルト認
ムルトキハ廃罷ヲ宣スヘシ

第千七百四條　後見ノ職ハ後見人ノ死亡ニ依
リテ終止スルノタトヘ又下ノ如ク即チ

第一　後見人カ死亡シタリト宣告セラルヽ
判決ノ確定ノ時

第二　後見人ノ行方不能力ノ開始ト共ニ

第三　後見裁判所ノ方ヨリ後見人ノ免職ト
共ニ

終止ス

第千七百五條　後見裁判所ハ左ノ場合ニ於テ
ハ後見人ヲ免職スヘシ

第一　若シ後見人ニ依リ後見ノ續行ニ依リ
被後見人ノ利益ニ顕著ナル危害ヲ生スル
虞懼有ル可キ時ニ於テ後見人ノ義務背反ノ所業ニ依リ生スル時

第二　若シ後見人ノ行為無能力ニ非サル他ノ無能力ノ理由ヲ記載シ又ハ表顯スルトキ

第三　若シ後見人ニ任セラレタル婦ノ夫カ後見ノ撫育又ハ繼行ノ兼議ヲ禁止シ又ハ取消ストキ但夫カ被後見人ノ父ナル場合ハ此限ニ非ス

第四　若シ第千六百四十二條ニ掲ケタル許可ヲ禁止セラレ又ハ取消サルヽトキ又若シ若邦法律ニ依リ職務關係又ハ職務關係ニ就リノ前據任シタル後見ノ續行ノ為メ別段ノ許可カ必要ナル場合ニ於テ其許可カ禁止セラレ又ハ取消サルヽトキハ前段ト同一ナリトス

第千七百六條　後見裁判所ハ若シ後見人カ顯著ナル理由ニ依リ免黜ヲ求ムルノ申立ヲ為ストキハ之ヲ免黜ス可シ

殊ニ顯著ナル理由ト看做サル可キハ後見ノ職行中第千六百四十三條第二号乃至第七号ノ或規ニ依リ後見ヲ拒却スルノ權利ヲ有スル情況ノ記載スルトキトス

第千七百七條　後見裁判所ハ後見人ヲ任セラレタル婦カ若シ婚姻ヲ結成スルトキハ之ヲ免黜スルヿヲ得

第千七百八條　後見人ハ共同後見人又ハ監査後見人ノ死亡ヲ後見裁判所ニ遅延巻ノ申告スルノ義務ヲ負フ

第千七百九條　後見又ハ後見職ノ終止ノ場合ニ於テハ後見人ニ属スル権利ニ関シテハ第六百三條ノ成規ヲ準用ス

第千七百十條　第千七百四條乃至第千七百九條ノ成規ハ監査後見人ニ之ヲ準用ス

第千七百十一條　後見人并ニ監査後見人ハ自己ノ職務ノ終止後其任職ヲ後見裁判所ニ返還スヿヲ可シ

第七款　親族會

第千七百十二條　親族會ハ若シ被後見人ノ父又ハ正婚所生ノ母カ其開設ヲ乞ヒタルトキ後見裁判所ニ於テ之ヲ開設スヿヲ可シ

年長者ハ左ノ規定ニ由テ親族會ハ単ニ將来ノ事故ノ堅確又ハ不堅確ノ場合ニ於テノミ之ヲ開設スヘシ又ハ親族會ハ此ノ如キ場合ニ於テ確認スヘシトスルノ規定ヲ為スヿヲ得

親族會ノ開設ハ若シ其開設ノ為メ必要ナル人員ヲ親族會ノ會員タルノ能力ヲ有シ及ヒ會議ヲ有スル者ヲ存在セサルトキハ之ヲ設置スヘシ

第千七百十三條　親族會ハ其開設ヲ後見裁判所ニ許ス被後見人ノ利益ノ為メ適当ナリト認

ムルトキハ後見裁判所之ヲ開設スルヿヲ得然レトモ其開設ハ此ノ如キ場合ニ於テハ若シ被後見人ノ血屬者又ハ姻屬者又ハ後見人又ハ監査後見人カ其開設ヲ求ムルノ申立ヲ為ストキニ限リ之ヲ果成スヘシ

開設ハ若シ被後見人ノ父又ハ正嫡所生ノ母カ之ヲ禁止シタルトキハ設置ス

第千七百十四條　親族會ハ會長タル後見判事及ヒ少クトモ二人多クトモ六人ノ會員ヨリ成立ス會員ハ職務ヲ信實及ヒ良心ヲ以テ執行スルノ

義務ヲ負擔スルニ流リ後見利害ヨリ任セラル
其義務ハ宣誓ニ換ヘ擬手ニ流リテ果ス
第千七百十五條　親族會ノ會員トシテ指定セ
ラル、者ハ被後見人ノ父又ハ正嫡所生ノ母ヨ
リ指名セラレタル者ナリトス第千六百三十七
條第一項第二項ノ成規ハ之ヲ準用ス
前項ニ照準シ會員トシテ指定セラレタル人カ
存在シタルニ非ス又ハ職務ヲ拒却スル時及ヒ
其限度ニ於テ親族會ノ決議能力ノ害メ公益ト
ル會員ヲ後見裁判所ニ於テ撰定ス其撰定前第

千六百七十八條ニ照準シ被後見人ノ血屬者及
ヒ姻屬者並ニ町村吏或事會ノ意見ヲ聽リ可
シ其他會員ノ撰定ハ親族會ノ決議ニ流リテ果
ス又ハ親族會ハ家多員數ニ付テノ成規ノ許ス丈
ケノ會員ヲ撰定スルヿヲ得
會員ノ任期ニ当リテハ將來ノ事故ノ起発又ハ
不起発ノ為メ其免黜ヲ留保スルヿヲ得
若シ會長ノ外單ニ人ノ會員ノミ存在シタル
時ハ一人又ハ二人ノ補充會員ヲ任期ス可シ
補充會員カ第一項ニ照準シテ既ニ指定セラレ

タルニ非サル限リハ親族會ニ於テ之ヲ撰定ス
可シ補充會員ハ若シ親族會カ會員ノ故障又ハ
缺ニ依リテ決議無能力ト認ムル時ハ會員トシテ
親族會ニ參加スルモノトス若シ二人以上ノ補
充會員カ任用セラルヽトキハ參加ノ順次カ又又
ハ毋ノ年令ニ依リ規定セラレタルニ非サル限
リハ親族會ニ同時ニ之ヲ規定スヲ可シ
若シ親族會カ會員ノ單ニ一時ノミノ保證ニ依
リテ決議無能力ト認ムル場合ニ於テ補充會
員ノ欠缺スルトキハ後見利事ハ故障ノ継続時間
ノ長ト能力ヲ有シ且合格ナル人ヲ補充會員ニ
撰定シ及ヒ任年スヲ可シ
第千七百十六條　何人タリトモ被後見人ノ後見
人タル能力無キ者ハ親族會ノ會員タル能力
無シ
其他左ニ掲クル者ハ親族會ノ會員タル能力
無シ
第一　被後見人ノ後見人
第二　婦
第三　何人タリトモ被後見人ト血屬ニモ非ス

又姻族ニモ非サル者但社者ハ被後見人ノ父又ハ正嫡所生ノ母ヨリ會員トシテ指名セラレタルトキハ又ハ第千七百十五條第五項ノ場合ニ於テハ後見判事ヨリ補充會員トシテ撰定セラレタルトキハ此限ニ非ス

第四　何人タリトモ父又ハ正嫡所生ノ母ノ年后ニ依リ除斥セラレタル者

第一項及ヒ第二項ノ成規ニ依リ無能力ナル人ノ任期ノ場合ニ在リテハ第千六百四十六條ノ成規ヲ準用ス

第千七百十七條　何人タリトモ親族會ノ會員ノ職ヲ担当スルノ義務ヲ負ハス

第千七百十八條　第千七百十二條第千七百十三條第千七百十五條第千七百十六條ニ依リ許可セラレタル父及ヒ母ノ年后ハ第千六百三十六條ノ成規ヲ準用ス

父ノ年后ハ母ノ年后ニ先行ス

第千七百十九條　親族會ハ法律カ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サル限リハ後見裁判所ノ権利及ヒ義務ヲ有ス殊ニ會員ノ責任ニ関シテモ

亦前段ト同一ナリ

事務ノ指揮ハ後見判事ノ義務ナリトス

若シ即時ノ着手ヲ要セサルトキハ後見判事ハ四十日ヲ経スシテ其年度ノ親族會ヲ招集シ之ニ其年度ノ諸知セシメ又其他尚ホ如何ナル要スルヿアルハ其如何ニ付キ親族會ノ決議ヲ取ル可シ

第千七百二十條　親族會ノ名會員ハ其職務ノ摂理ニ依リ自己ニ生シタル現金ヲ替拂ノ賠償ヲ被後見人ニ對シテ要求スルヿヲ得サル金額ハ後見判事之ヲ確定ス

第千七百二十一條　親族會ハ會員ニ名又ハ後見人又ハ監査後見人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ後見判事之ヲ召集ス會員ノ召喚ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ果成スルヿヲ得

會員ニシテ充分ナル先責事由無クシテ欠席シ又ハ自己ノ故障ノ正当時期ニ於ケル申告ヲ為サス又ハ決議ニ參與スルヿヲ遲ラシタル者ハ之ニ因リテ惹起シタル費用ノ償責判決ヲ後見判事ヨリ言渡サル又後見判事ハ其ノ如キ會員ニ對

レ三百マル以下ノ違反罰ヲ科スルヿヲ得若
シ後日ニ至リ充分ナル免責事由ノ効果ヲ生ス
ルトキハ費用ノ歸費判決ヲ果成シ又ハ違反罰ヲ
科シタル年月ヲ更ニ廢罷スヿヲ
第千七百二十二條　親族會ハ後見判事及ヒ少
リハ會員ニ名ノ現在スルトキハ決議能力ヲ有ス
成年者ニ代レル代理ハ之ヲ許サス
若シ事件ニ關シ被後見人ノ利益ト會員ノ利益
ニ對シ顯著ナル反對ニ出ツトキハ其會員ハ決議
ヨリ除斥セラル其除斥ニ付テハ後見判事之ヲ
裁定ス
決議ニ当リテハ現在員ノ表決ノ多數ニ依リテ
決ス表決同數ナル場合ニ在テハ後見判事ノ表
決ニ依リテ決ス
第千七百二十三條　親族會ノ會員ノ職務ノ終
止ニ關シテハ第千七百四條第千七百五條第一
号第二号及ヒ第千七百六條第一項ノ成規ヲ準
用ス
會員ノ其意思ニ反スル罷免ハ階級ニ於テ後見
裁判所ニ上訴ノ裁判所ニ限リ之ヲ果成スルヿ

ヲ得

第千七百二十四條　親族會ハ左ノ場合ニ在リテハ後見裁判所ヨリ廃罷セラルヽコトヲ得

第一　若シ決議能力ノ害メラルヽ程度ニ至ラサル會員ノ員数カ既ニ存シタルトキ

能力ヲ有セサル合格ノ人ノ欠缺スル害メ後見裁判所ノ為ス補充ノ不可能ナルトキ

第二　若シ場合即チ之カ害メニ廃罷カ第千七百十二條第二項ニ照準シ又又ハ毋ヨリ年セラレタル場合ノ開始スルトキ

親族會ノ廃罷ハ此時ニテノ會員、後見人及ヒ監査後見人ニ之ヲ知ラシム可シ後見人及ヒ監査後見人ハ新ナル職任ヲ受ク旧職任ハ後見裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

第八款　市町村孤児条事會ノ協力

第千七百二十五條　市町村孤児条事會ノ協力裁判所ノ保護ヲ受ケテ自己ノ管轄地内ニ居留スル被後見人ノ一身ニ付テノ監護カ義務ニ違準シテ実行セラルヽヿヲ厳ニ監視シ且其監護ニ付キ殊ニ被後見人ノ身體上ノ監理及ヒ教育

ニ関シテ自己カ極知スル所ノ職業及ヒ欠缺ヲ後見裁判所ニ申告スヘシ又其条事情ハ被後見人ノ一身上養育及ヒ行状ニ付テノ所況ヲ後見裁判所ニ報告ヲ典フヘシ

孤児条事情ハ若シ被後見人ノ財産ノ危險ヲ謝知セルトキハ後見裁判所ニ申告ヲ為スヘシ

孤児条事情ハ**各個**ノ場合ニ於テ後見人若クハ監査後見人トシテ又ハ親族会ノ議決トシテ任所スルニ合格セリト認ムル人ヲ後見裁判所ニ推薦スヘシ

後見裁判所ハ孤児条事情ノ管轄地内ニ居留スル被後見人カ後見人ヲ添附セラルル各個ノ場合ニ於テハ後見人及ヒ監査後見人ノ名ヲ記シテ其後見添附ヲ孤児条事情ニ謝知セシメ又後見人又ハ監査後見人ノ一身ノ変更ヲモ之ニ報知スヘシ

若シ被後見人ノ居留ヲ他ノ孤児条事情ノ管轄地内ニ転セラルトキハ後見人ハ被後見人カ其時マテ居留シタル地ヲ管轄スル孤児条事情ニ其転居ヲ届出スヘシ届出ヲ受ケタル孤児条

事情ハ被後見人ノ轉居シタル地ヲ管轄スル孤
兒係事務ニ其轉居ノ通知スヘシ

第二章　成年者ニ付テノ後見

第千七百二十六條　成年者ハ若シ成年ヲ剥奪
セラレタルトキハ後見人ヲ受ク
成年者ハ若シ後見保護ノ必要ナリト宣告セラ
レタルトキ後見ヲ受ク
後見裁判所ハ若シ成年者カ離、官又ハ啞ナル場
合ニ於テ其ノ知キ不具ノ為メ自己ノ事務ヲ担
当スル能ハサルトキニ限リ成年者ニ對シ後見保
護ノ必要ナリト宣告スルヿヲ得其保護ノ必要
宣告ハ單ニ保護ノ必要者ノ同意ヲ得テノミ要ス
又可シ但保護ノ必要者ノ意思ヲ了解スル丁能ハ
サル場合ハ其限ニ非ス
第千七百二十八條　成年者ニ付テノ後見ニハ
十年者ニ付テノ後見ノ為メ現行ノ成規ヲ準用
又但第千七百二十九條乃至第千七百三十七條
ニ於テ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サル限リ
第千七百二十九條　左ニ掲クル者ハ左ニ掲ク

ル列位ニ於テ後見人トシテ指定セラレタルモノトス

第一　被後見人ノ父

第二　被後見人ノ正婚所生ノ母

第三　被後見人ノ父方ノ祖父

第四　被後見人ノ母方ノ祖父

然レトモ父及ヒ母ハ若シ被後見人カ自己ノ父又ハ自己ノ母ノ配偶者ニ非サル他ノ人ヨリ子養セラレタルトキハ指定セラレタルニ非ス父方ノ祖父又ハ母方ノ祖父ハ若シ被後見人カ他人ヨリ子養セラレタルトキハ又ハ被後見人ノ所生ノ子カ他人ヨリ子養セラレタル場合ニ於テ其子養ノ位用カ被後見人ニ擬及レタルトキ指定セラレタルニ非ス但養親カ養子ノ父又ハ母ハ配偶者ナリシ場合ハ其限ニ非ス

若シ被後見人カ無効婚姻所生ノ子ナルトキハ父ハ第千五百六十四條第千五百六十六條ノ場合ニ於テ母ハ第千五百六十五條第千五百六十六條ノ場合ニ於テハ指定セラレタルニ非ス

婦ハ自己ノ父ノ後見人ニ任セラルヽヿヲ得夫

ノ兼認ハ之ヲ要セス

被後見人ノ配偶者ハ第一項ノ成規ニ依リ指定セラレタル人ニ先ケ又非婚所生ノ母並ニ第千五百六十五條第千五百六十六條ノ場合ニ於テハ正婚所生ノ母ハ母方ノ祖父ニ先ケテ後見人ニ任セラルヽコトヲ許サル

被後見人ノ父若クハ母ノ権利ニ属スル後見人ノ指名並ニ後見ノ除斥ハ之ヲ許サス

第千七百三十條　後見人ハ単ニ後見ノ目的ニ属リ必要ナル範囲ニ限リ被後見人ノ一身ニ対キ監護スルノ義務及ヒ権利ヲ有ス

第千五百九條ノ成規ハ一切之ヲ適用セス

第千七百三十一條　新家構造ノ確保又ハ借典ノ害メニハ後見裁判所ノ認諾ヲ必要トスト

第千七百三十二條　使用賃借契約又ハ用益賃借契約又ハ其他ノ定期復帰スル債権行為ノ義務ヲ生スル契約ノ為メニハ其契約関係ノ四年ヨリ長キ年間継続スル場合ニ限リ後見裁判所ノ認諾ヲ必要トス第千六百七十四條第六号ノ成規ハ一切之ヲ適用セス第千六百七十四

條第七号ノ成規ハ變更ヲ受クルヿ無シ、

第千七百三十三條　若シ被後見人ノ父カ後見人ニ任セラレタルトキハ監査後見人ノ任命ハ之ヲ告サス、又後見人ニ任セラレタル父ニハ第千六百九十二條ノ成規ニ依リ第千六百九十八條乃至第千六百九十二條ノ成規ニ依リ第千六百九十四條ノ成規ニ屬スルモノトス、第千六百九十四條ノ成規ハ之ヲ準用ス

若シ被後見人ノ正嫡所生ノ母カ後見人ニ任セラレタルトキハ前項ノ成規ハ左ノ制限即チ父母ノ權力ノ所持者タル母ニ第千五百三十八條第一項第二号、第三号ノ成規ニ依リ輔佐人カ任セラルヽ可キ豫定條件ヲ以テ監査後見人ノ任セラル可シトスル制限ヲ以テ之ヲ準用ス若シ監査後見人カ任セラルヽトキハ母ニハ第千六百九十條ニ掲ケタル竈束免除ノ權利ハ屬セサルモノトス

第一項及ヒ第二項ノ成規ハ後見人ニ任セラレタル使親カ被後見人ノ七年ノ豫定條件ヲ以テ子ノ財産ニ付キ監護スルノ義務及ヒ權利ヲ有

セサル可カリシ今度ハ限リ一モ之ヲ適用セス若シ被後見人カ後見人ニ任セラレタル隻親ノ養子ナルトキハ使親ノ輪束並隙ノ権利ハ若シ後見裁判所カ被後見人ノ利益ノ為メ此権利ノ除斥ヲ必要ナリト認ムルトキハ後見裁判所ニ依リテ除斥セラルヽヿ有リ

第千七百三十四條　若シ被後見人ノ父又ハ正嫡所生ノ母カ後見人ニ任セラレタル場合ニ於テ父又ハ母カ婚姻ヲ結成セントスルトキハ第千五百四十八條ノ成規ヲ準用ス

第千七百三十五條　後見ハ被後見人ノ死亡ニ依リテ終止セラルヽノ外尚ホ被後見人カ死亡シタリト宣告セラルヽ裁判決ノ確下ト共ニ終止セラル

右ノ外成年ヲ剥奪セラレタル人ニ付テノ後見ハ其成年剥奪ノ廃罷ニ依リテ終止セラレ後見上保護ノ必要ナリト宣告セラレタル人ニ付テノ後見ハ其後見ハ後見裁判所ヨリ廃罷セラルヽニ依リテ終止セラル

後見上保護ノ必要ナリト宣告セラレタル人ニ

付テノ後見ノ廃罷ハ若シ後見裁判所カ後見上
保護ヲ受クル被後見人ヲ既ニ保護ノ必要ナル
ニ非スト認ムルトキハ又ハ被後見人カ廃罷ヲ求ム
ルノ申立ヲ為ストキ果成スヘシ
第千七百三十六條　親族會ノ開設ハ単ニ第千
七百十三條第一項ニ照準シテノミ果成スルヿ
ヲ得被後見人ノ父並ニ正婚所生ノ母ハ親族會
ノ開設ニ付キ又ハ廃罷ニ付キ又ハ親族會ノ會
員ニ付キ年長ヲ為スノ権利ヲ有セス
第千七百三十七條　若シ成年ナル人ノ成年剥
奪ヲ求ムルノ申立有リタルトキハ後見裁判所ハ
其申立ノ落着シタルニ非ル間此人ニ付キ假後
見ヲ命スルヿヲ得
後見指定ニ関スル成規ハ一モノヲ適用セス後
見人ノ撰定ハ後見裁判所ニ於テ第千六三十八
條ニ照準シテ之ヲ果成ス
假後見ハ被後見人ノ弘ク又ハ弘ク宣告ニ依リ
テ終止スルノ外尚ホ後見裁判所ヨリ成年剥奪
ヲ求ムル申立ノ却下ニ依リ又ハ後見ノ廃罷ニ
依リテ終止セラルヘシ廃罷ハ若シ後見裁判所カ

被後見人ニ對シ僞ノ後見添附ノ既ニ公要ナル
ニ非スト認ムルトキハ又ハ被後見人ノ成年剥奪ノ
事成シタルトキ成スヘシ
右ノ外僞後見ニハ成年ニ付テハ後見ノ告メ現
行ノ成規ヲ適用ス

第三節　管理

第千七百三十八條　廿年者並ニ後見ヲ添附セ
ラレタル若クハ後見ヲ添附セラルヘキ成年者
ハ父母ノ權力ノ所持者又ハ後見人ノ監護カ公
要ナルヲ事實上若クハ法律上ノ原由ニ因リテ
制限スルヲ得サル事務ノ告メ管理人ヲ受ク殊
ニ廿年又ハ成年者カ相續ニ依リ又ハ贈遺ト
依リ又ハ遺產義務部分トシテ取得シ又ハ第三
者ノ方ヨリ生存者間ノ贈寄ニ依リテ取得スル
財產ノ目的物ノ管理ノ告メ管理人ヲ受ク但第
一ノ場合ニ在テハ遺產者カ未期量思如ク依
リ第二ノ場合ニ在テハ第三者カ贈寄ノ際左ノ
規定即チ右財產ノ目的物ノ管理ハ父母ノ權力
ノ所持人又ハ後見人ニ屬スヘシトスルノ規
定ヲ設ケタル限度ニ於テス

若シ前項ノ成規ニ依リ任命セラルヽ者ヲ管理ノ為メノ豫定條件ノ存在スルトキハ父母ノ権力ノ所持者又ハ後見人ハ遅延為ス後見裁判所ニ申告ヲ為スヽ可シ

第千七百三十九條　成年者ニシテ自己ノ精神上若クハ身体上ノ現状ニ因リ自己ノ財産事務ヲ担当スルヿノ全部又ハ一分ヲ障碍セラレタル者ハ其需要ノ擴及スル分度ニ限リ継続第千七百二十六條第千七百二十七條第千七百三十七條ニ照準シ後見添附ノ豫定條件ノ存スルニ非サルトキハ其財産事務ノ担当ノ為メ管理人ヲ委ルヿヲ得管理ノ任命ハ単ニ被障碍者ノ同意ヲ以テノミ果成スルヿヲ得但被障碍者ノ意思ヲ了解スルヿ能ハサルトキハ其限ニ非ス

第千七百四十條　不在ノ成年者ニシテ其居所ノ知レサル者ハ委任若クハ全権ノ授與ニ依リテ撫理ヲ委ケタルニ非サルトキハ及ヒ其限度ニ於テ又ハ委任若クハ全権ノ消滅ノ結果ヲ生スル情況若クハ其委任若クハ全権ノ取消ヲ為スニ正確ナル証因ヲ與フル情況ノ起発スルトキハ及ヒ

其限度ニ於テ損害ヲ要スル自己ノ財産事務ノ担当ノ為メ管理人不在管財人ヲ置ク

前項ノ成規ハ不在者ニシテ其居所ハ知レタルモ還帰及ヒ自己ノ財産事務ノ担当ヲ障碍セラレタル者ニ関シ之ヲ準用ス

第千七百四十一條　胎児ニシテ之カ為メ既成出生ノ擬定條件ヲ以テ後見又ハ管理ノ任命セラル可カリシ者ハ其将来ノ権利ノ監護ノ為メ管理人ヲ置ク但此ノ如キ監護ノ必要ナル分度ニ限ル

第千七百四十二條　何人カ或ル事務ニ付テ当事ナルヤノ知レス又ハ確カナラサルトキハ此事務ニ関シ当事者ノ為メ管理人ヲ任命スルヿヲ得

第千七百四十三條　管理ニハ法律カ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サル限リハ後見ニ関スル成規ヲ準用ス

第千七百四十四條　第千七百三十八條ノ場合ニ在テハ後見指定ニ関スル成規ハ一モ之ヲ適用セス

第千七百四十五條　若シ父母ノ権力ノ下ニ立ツ子又ハ被後見人ノ相続ニ依リ又ハ贈遺ニ依リ又ハ遺産義務部分トシテ取得シタル財産ノ目的物ニ付キ遺産者カ為シタル年月ニ依リ管理カ四年ナルトキハ遺産者ヨリ未期意思表示ニ依リテ指名セラレタル者カ第千六百三十七條ニ照準シ管理人トシテ指定セラレタルモノトス遺産者ハ其ノ如キ財産目的物ニ関シテハ自己ノ指名シタル管理人ノ為メ未期意思表示ニ依リ第千六百九十四條乃至第千六百九十四條ニ

掲ケタル竊束免除ヲモ示唆スルヿヲ得第千六百九十四條ノ成規ハ之ヲ準用ス

前項ノ成規ハ第三者ノ生存者間権利行為ニ依リテ為シタル贈寄ニ関シテハ左ノ制限即チ管理人ノ指名及ヒ竊束免除ノ年月ハ贈寄ノ際果成スルヿヲ要ス及ヒ第三者ノ年月ニ変遷セントスルニハ第三者ノ生存スル間此者ノ承諾カ四年十ヶ月ト其承諾ヲ以テ之ヲ準用ス

第千七百四十六條　監査後見人ノ任年ハ之ヲ

告スヿヲ許スヿ然レトモ其任年ハ以後ナルニ依ス

第千七百四十七條　爭訟ニ関シテ管理人ヨリ代理セラレタル訴訟有能者ハ其爭訟ニ関シテハ訴訟無能者ト同シ

第千七百四十八條　管理ハ下ノ如ク終止ス

第一　少年者ノ爲メニスル管理ハ少年者ニ付テ父母ノ權力及ヒ後見ノ終止ト共ニ

第二　後見ヲ添附セラレタル成年者ノ爲メニスル管理成年者ニ付テハ後見ノ終止ト共ニ

第三　第千七百三十九條ニ遵準シテ任命セラレタル管理ハ管理者ノ死亡ニ依リテ終止スルノ外尚ホ管理者カ死亡シタリト宣告セラルヽ判決ノ発下ト共ニ

第四　不在者ノ爲メニスル管理ハ不在者カ死亡シタリト宣告セラルヽ判決ノ発下ト共ニ

第五　胎児ノ爲メニスル管理ハ出生ト共ニ又ハ出生ヲ果成セサル可キヿノ確定ト共ニ

第六　右個ノ事務ノ告メニスル管理ハ其事務ノ完了ト共ニ

右ノ外ハ管理ノ終止スル告メニハ後見裁判所ノ方ヨリノ廃罷カ正当ナリ此廃罷ハ若シ管理ノ年セラル可キ怠由カ虧缺スルハ果成ス可シ

殊ニ不在者ノ告メニスル管理ノ廃罷ハ若シ不在者ノ死亡ノ確定シ又ハ不在者カ当該財産事務ノ担当ノ既ニ障碍セラレタルニ非サルハ果成ス可シ第千七百三十九條ニ遵準シテ年セラレタル管理ハ若シ受管理者ヨリ廃罷ヲ求ムル

ノ申立ヲ告スハ廃罷セラル可シ

紙数百九拾枚

今村研介訳

獨逸民法草案　第五巻　相續之部

司法省
總務局
記録課

独逸民法草案第五巻

民法

第五編　相續法

第一章　通則

第千七百四十九條　人ノ死亡相續ノ撞着ト共ニ其人ノ全團タル財産遺産ハ一人若クハ二人以上ノ他人相続人ニ移轉ス

全團タル財産ノ移轉遺産相続ハ遺産者ニ於テ之ヲ承継スルヿヲ得ス

第千七百五十條　二人以上ノ相続ニハ遺産ハ各割部分ニ於テ移轉ス（遺産部分）

遺産部分ニハ法律ニ依リ別段ノ事項ノ表顯セサル限リハ遺産ニ関スル成規ヲ準用ス

第千七百五十一條　相續人ハ遺産者ニ於テ因死亡ニ依リ之ヲ指定スルヿヲ得相続人指定遺産者カ相續人ヲ指定シタルニ非ス又ハ相続人指定カ無効用タリ又ハ効用ノモノト為リタルトキ及ヒ其限度ニ於テ法律上ノ遺産相続カ開始ス

第千七百五十二條　何人タリトモ遺産者ヨリ長リ生存シタルニ非サル者ハ相續人ト為ルヿヲ得ス

第二章　未期意思表示

第一節　通則

第千七百五十三條　遺産者ハ法律カ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サル限リハ一方限リノ因死亡ニ未期意思表示（遺囑）ニ依リ自己ノ財産ニ付キ処分スルヿヲ得

未期意思表示ハ遺産者ニ於テ何時タリトモ之ヲ

廃罷スルヿヲ得

第千七百五十四條　某人ヵ未期意思処分ヲ作成シ若リハ作成セス又ハ廃罷シ若リハ廃罷セサルノ義務ヲ自己ニ負担スルノ契約ハ為サ

リ

第千七百五十五條　遺産者ハ未期意思処分ヲ以テ相続人ヲ指定スルヿヲ得

遺産者ハ未期意思処分ニ依リ相続人ヲ指定スル為リシテ血属者又ハ配偶者ヲ法律上遺産相続ヨリ除斥スルヿヲ得

第千七百五十六條　相續人指定ノ手続ニ非サル他ノ方法ニ於テモ亦他人ニ與フル贈寄ハ果

成スルヿヲ得（贈遺）

相続人並ニ贈遺收受者ハ贈遺ノ責務ヲ帰負セラルヽヿヲ得

第千七百五十七條　相続人並ニ贈遺收受者ハ未期意思処分ニ依リ他人ニ贈寄スル為シテ

成ル債行為ヲ果成スル義務ヲ帰負セラルヽヿヲ得（原不義務）

第千七百五十八條　相続ノ場合ノ当時既ニ受

推セラレタル者ハ相続人又ハ後離相続人トシテ指定セラレ並ニ贈遺ヲ以テ供給セラルヽヿヲ得

相続ノ場合ノ当時未タ受胎セラレタルニ非サル者ハ後離相続人トシテ指定セラレ並ニ贈遺ヲ以テ供給セラルヽヿヲ得ルモ決シテ相続人トシテ指定セラルヽヿヲ得ス若シ此ノ如キ者カ相続人トシテ指定セラレタル場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ遺産者カ其指定ヲ後離相続人ナリト意望シタリト推認セラルヽ可シ

第千七百五十九條　法人ハ相続人又ハ後離相続人トシテ指定セラレ並ニ贈遺ヲ以テ供給セラルヽヿヲ得

第千七百六十條　未期意思処分ニハ設若條件又ハ期間設定カ附加セラルヽヿヲ得

第千七百六十一條　若シ未期意思処分ニ依リ果成スル贈寄未期意思ノ贈寄ニ停止ノ設若條件カ附加セラレタル場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ其贈寄ハ若シ受給者カ設若條件ノ成就ノ時現ニ生存セサルニ於テハ無効ノモノト為

ル可シト推認セラル可シ

第千七百六十二條　若シ未期意思如何ニ於テ設若條件ト為サレタル事故カ未期意思如何ノ作成後ニ到始シタルモ相続ノ場合前ナル件疑ヒノ存スルニ於テハ其設若條件ハ成就シタリト推認セラル可シ

前項ノ成規ハ若シ設若條件ト為サレタル事故カ受益者ノ行為即チ反復シニ等行スルヿヲ受益者ノ随意ニ繫タル行為ヨリ成立スル件ハ一モ之ヲ適用セス

第千七百六十三條　若シ未期意思ノ贈与ニ附加セラレタル設若條件ノ成就カ第三者ノ利益ヲ目的トスル場合ニ於テ疑ヒノ存スル件ハ第三者カ其成就ノ告メタル協力ヲ拒却スル件ハ其設若條件ハ成就シタリト看做サル可シ

第千七百六十四條　未期意思ノ贈与ヲ左ノ設若條件ト為シタル時ハ受益者カ其生存時間自己ノ随意ニ繫タル或ル行為ヲ作為セサル可シトスル設若條件ニ繫ラレタル場合ニ於テハ総テ其設若條件カ停止ノ設若條件ナリト明示セラレタルモ

疑ヒノ存スル時ハ若シ行為ノ単行ノ果成ス可キニ於テハ贈寄ハ総代理人ノ設定保佐人ノ設定保佐人ノ付加ヲ意望セラレタリト看做サル可シ

前項ノ成規ハ若シ贈寄ヲ受給者ノ死亡ニ至ルマテ継続セラレ且其遺意ニ繋ル行為ニ繋ラレメタル時ハ之ヲ準用ス

第千七百六十五條　未期意思処分ニ付加セラレメタル設定保佐人ヲ責務負担者又ハ第三者ノ単純ノ意思ヨリ成立シタル時ハ未期意思処分ハ

無効タリ

第千七百六十六條　若シ贈遺又ハ信示義務ニ関シテ債行為ヲ果成ノ時ハ責務負担者ノ遺意ニ委ネセラレタル時疑ヒノ存スルニ於テハ其債行為ハ責務負担者ノ死亡ト共ニ満期ト為ル

第千七百六十七條　若シ未期意思処分ニ補足ノ留保ヲ付加セラレタル場合ニ於テ補足ノ為サレタルニ止マサル時ハ其留保ハ付加セラレタルニ止マスト看做ス但未期意思処分ノ作用ヲ補足ニ繋ラシメラレタル可シトスル遺産者ノ意

因ノ表顯セサル分度ニ限ル

第千七百六十八條　若シ未期意思ヲ分ニ於テ二人以上ノ人ノ孰レノ遺産者ヨリ供給ヲ受クルヤノ確カナラサルトキハ其贈寄ハ不成ナリ

第千七百六十九條　若シ未期意思ヲ分ニ於テ二人以上ノ人カ左ノ方法即チ第三此人等ノ中ノ孰レカ一人ノミ相続人タル可シトスル方法ニ於テ相続人トシテ指定セラレタルトキハ共同相続人トシテ指定セラレタリト看做ス

若シ未期意思ヲ分ニ於テ二人以上ノ人カ左ノ方法即チ第三此人等ノ孰レカ一人ノミ贈遺ヲ受クル可シトスル方法ニ於テ贈遺ヲ以テ供給セラレタルトキハ各同債権者ト看做ス若シ疑ヒノ存スルトキハ其贈遺ヲ受クル人ハ分配スルノ義務ヲ負ハス

第千七百七十條　未期意思ヲ分ニ於テ遺産者ハ贈寄ヲ受クル可キ人ノ定メヲ責務負担者又ハ第三者ニ委付スルヿヲ得ス若シ遺産者カ擇定セラル可キ二人以上ノ人表示シタルトキハ第千七百六十九條ノ成規ヲ準用ス

第千七百七十一條　若シ未期意思如何ニ於テ遺産者ノ血屬者又ハ最近血屬者カ詳細ナル指定無リシテ供給セラレタル場合ニ在テ疑ヒノ存スルトキハ遺産者ノ法律上相続人タル可カリシ血屬者等カ法律上遺産相続ニ関スル成規ニ照準シテ供給セラレタリト推認セラル可シ

何人カ法律上相続人ト看做サル可キヤハ相続事故ノ時點ニ於リテ定セル然レトモ贈寄ニ停止ノ設若條件又ハ起始期日カ附加セラレタル場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ遺産者カ設若條件又ハ起始期日ノ開始ノ時始メテ死亡シタル可カリシ人カ供給セラレタル可シト推認セラル

第千七百七十二條　若シ未期意思如何ニ於テ遺産者ノ子カ詳細ナル指定無リシテ供給セラレタル場合ニ在テ疑ヒノ存スルトキハ未期意思如何ノ作成ノ時既ニ死亡シタル可カリシ子孫ニ供給セラレ且其死亡シタル子カ若シ尚ホ生存シタル可カリシトキハ法律上遺産相続ニ関スル成規ニ照準シテ收受ス可カリシ部分ヲ

收受ス可シト推認セラル可シ

第千七百七十三條　若シ未期意思処分ニ於テ遺産者ノ子孫カ供給セラレタル場合ニ在テ疑ヒアルトキハ其供給セラレタル子孫ノ子孫即チ法律上遺産相続ノ場合ニ於テ其代リニ指定セラレタル可カリシ子孫カ補充指定ノ手続ヲ以テ贈与ヲ供給セラレ且補充指定ノ作用ヲ有スルモノト認ル可キナラハ法律上遺産相続ニ関スル成規ニ照準シテ其贈与ヲ收受ス可シト推認セラル可シ

第千七百七十四條　若シ未期意思処分ニ於テ第三者ノ子孫カ詳細ナル指定無リシテ供給セラレタル場合ニ在テ疑ヒアルトキハ相続事故ノ当時ニ於テ未タ出生シタルニ非ス又受胎セラレタルニ非サリシ子孫ハ供給セラレタルニ非スト推認セラル可シ

第千七百七十五條　若シ遺産者カ未期意思処分ニ於テ詳細ナル指定無クシテ或ル人ノ等類又ハ自己ト聯絡上関係又ハ行路上関係ヲ有スル人ニ供給シタル場合ニ在テ疑ヒアルトキハ

ハ相続事故ノ当時右ノ等類ニ属シ又ハ右ノ関係ヲ有スル人カ供給セラレタリト看做サル可シ

第千七百七十六條　若シ未期意思処分ニ於テ負債カ詳細ナル指定無リシテ供給セラレタル場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ公ノ負債金庫カ供給セラレタリト看做サル可シ

第千七百七十七條　未期意思処分ニ於テ遺産者ハ贈与ノ目的物ノ定メヲ他人ニ委付スルヿヲ得ス若シ遺産者カ二人以上ノ受給者ニ贈与スル場合ニ於テ其各個人カ贈与ノ目的物ヨリ收受ス可キモノヽ定メヲ責務負担者又ハ第三者ニ委付シタルトキハ受給者等ハ平等ノ持分ニテ供給セラレタリト看做サル可シ撰擇贈遺及ヒ単ニ種類ニ於テノミ定メラレタル物ノ贈遺ニ関スル成規ハ之カ為メ変更セラルヽヿ無シ

第千七百七十八條　若シ未期意思処分ノ含有カ種々ニ解釈セラルヽヿヲ得可キ場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ未期意思処分ノ効果ヲ有スルヿヲ得ル所ノ解釈カ先收セラル可シ

第千七百七十九條　若シ未期意思処分ニ関シ遺産者ノ真実ノ意思ヲ其陳述シタル意思ト一致セサルトキハ未期意思処分ハ無効ナリ第九十五條第九十七條第二項乃至第四項及ヒ第九十九條ノ成規ハ一モ之ヲ適用セス

第千七百八十條　未期意思処分ハ若シ遺産者ヲ脅迫又ハ詐欺ニ依リ違法ニ其処分ヲ為スニ致ラシメラレタルトキハ抗告セラルヽヿヲ得

第千七百八十一條　未期意思処分ハ若シ遺産者ヲ過失又ハ現在ニ関スル錯誤ニ因リ其処分ヲ為スニ至ラシメラレタルトキハ又ハ遺産者ヲ将来ノ事故又ハ法律上ノ結果ノ発生又ハ不発生ノ豫定條件ニ因リ其処分ヲ為スニ至ラシメラレタル場合ニ於テ其豫定條件ノ成就シタルニ非サルトキハ抗告セラルヽヿヲ得

右ノ処分ハ若シ錯誤ヲ処分ニ因リ認知セラルヽ可リ又ハ豫定條件ヲ処分ニ於テ明示若シハ默示ニテ陳述セラレタルトキニハ抗告セラルヽヿヲ得

第千七百八十二條　若シ未期意思処分ニ於テ

相続ノ場合ノ当時存在シタル遺産義務部分ノ権利者即チ其処分作成ノ際遺産者ニ於テ其存在スルヿヲ識知セサリシ遺産義務部分権利者殊ニ遺産者カ死亡シタルトキ推認セシ遺産義務部分権利者又ハ主期意思処分ノ作成ノ後始メテ出生シ若クハ遺産義務部分権利者カ漏レタルヿヲ疑ヒノ存スルニ於テハ遺産者カ第一ノ場合ニ於テハ遺産義務部分権利者ノ存在セサルヿニ付テノ錯誤ニ因リテ主期ノ意思処分ヲ為スニ至ラシメラレシトキノ場合ニ於テハ遺産義務部分権利者ノ後日出生セサル可シ若クハ後日遺産義務部分権利者ト為ラサル可シトスルノ推定條件ニ因リ主期ノ意思処分ヲ為スニ至ラシメラレタリト推認セラル可シ

此処分ハ前項ノ場合ニ於テハ第千七百八十一條第二項ニ定メタル要件ノ存シタルニ非サルトキト雖モ第千七百八十一條ニ照準シテ抗争セラルヽヿヲ得

第千七百八十三條　主期意思処分ニシテ一方ノ配偶者カ之ニ因リテ他ノ一方ノ配偶者ニ供

結ヲ為シタルモノハ婚姻ノ成立シタルトキ又ハ婚
姻カ抗告セラルヘキ場合ニ於テ抗告セラレタ
ルトキ又ハ婚姻カ配偶者ノ一方ノ死亡前ニ離
セラレタルトキ抗告セラルヘキヿヲ得
未期意思外ニシテ婚姻豫約者カ之ニ因リテ
他ノ一方ノ婚姻豫約者ニ供給ヲ為シタルモノ
ハ若シ婚姻豫約カ遺産者ノ死亡前ニ解離セラ
レタルトキ抗告セラルヘキヿヲ得
抗告ハ若シ未期意思外カ右ニ掲ケタル場合
ノ起算シタルトキト雖モ尚未効力ヲ有スヘシト

スル遺産者ノ意思ノ表顕スルトキハ條件セラル
第千七百八十四條　第千七百八十條乃至第千
七百八十三條ノ場合ニ於テハ若シ未期意思外
ノ位置セラレタルニ非サルヘカリシトキハ
相続人若クハ贈遺收受者トシテ指定セラレタ
ルヘカリシ者又ハ責務負担ヲ免除セラレ若ク
ハ権利ヲ受得シタルヘカリシ者カ抗告ノ権利
ヲ有ス若シ千七百八十條乃至第千七百八十二
條ノ場合ニ於テ詐偽錯誤又ハ不堅固ノ豫定條
件ト雖ト一定ノ人ニノミ関係シ此人カ抗告ノ

権利ヲ有シタルトキハ又ハ此人カ遺産者ヨリ長生シタル可カリシ場合ニ於テ抗告ノ権利ヲ有シタル可カリシトキハ他人ハ抗告ノ権利ヲ有セス

第千七百八十五條　抗告ハ一年ノ期間内ニ果成スルヿヲ要ス此期間ハ抗告権利者カ抗告ノ権利ヲ生スル事実ヲ認知シタル時点ヲ以テ始マル

抗告ノ為メノ期間ハ主期意思処分カ告知セラレタル時点ヨリ起算シ三十年トス但抗告カ前項ニ遺漏シ此期間前既ニ除斥セラレタルニ非サルトキニ限ル

第百六十六條ノ成規ハ之ヲ準用ス

第千七百八十六條　抗告ハ若シ遺産者カ命迫ニ流ル抗告ノ場合ニ於テハ命迫ノ現状ノ除去セラレタル後他ノ原由ニ依ル抗告ノ場合ニ於テハ遺産者カ其原由ヲ認知シタル後未期意思処分ヲ廃罷スルヿヲ告シタルニ非スシテ右ノ時点ヨリ遺産者ノ死亡スルマテ一年ヲ経過シタルトキハ此期間ノ起始及ヒ経過ハ遺産者カ未期意思処分ヲ廃罷スルヿ能ハサル時

間傳止ス

第千七百八十七條　若シ遺囑ニ它ノ名義セル名個ノ処分ノ無効用ナル理由ハ単ニ此名個ノ処分ニノミ関スルトキハ遺囑ニ它ノ名義セル目的ノ処分ハ単ニ遺産者ハ右ノ無効用ナル処分無リシテ此処分ヲ告シタル処分ニ此サル可シトスルコノ表顕スル限度ニ限リ無効用タリ

第二節　相続人設定

第千七百八十八條　若シ未知意思ノ贈与ノ際遺産者ハ自己ノ財産ヲ全團トシテ又ハ此財産ノ分割部分ヲ受給者ニ授与ス可シトスルノ意思ノ表顕スルトキハ其贈与ハ受給者ハ相続人トシテ指定セラレタルニ此サルトキト雖モ之ヲ相続人設定ト看做ス可シ

若シ単ニ一個若クハ二個以上ノ財産ノ目的物ハ受給者ニ贈与セラレタル場合ニ於テ疑ヒノ存スルトキハ遺産者ハ受給者ヲ相続人トシテ指定シタルトト雖モ相続人設定ヲ意望シタルニ此スト推認セラル可シ

第千七百八十九條　若シ相続人ハ共同相続人

ノ設定為リシテ設定セラレタル場合ニ於テ其設定カ遺産ノ分割部分ニ限ラレタルニ非サルトキ又ハ二人以上ノ相続人ノ設定セラレタル場合ニ於テサリトテ其内ノ一人ノ設定カ遺産ノ分割部分ニ限ラレタルニ非サルトキハ法律上ノ遺産相続ハ除外セラルル

第千七百九十條　若シ遺産者カ単ニ一人ノミノ相続人ヲ設定シタルモ其設定カ遺産ノ分割部分ニ限ラレタルトキハ其限リニ於テハ法律上ノ遺産相続カ開始ス

若シ遺産者カ二人以上ノ相続人ヲ設定シタル場合ニ於テ分割部分カ全国ヲ居住スル為シテ各個相続人ノ設定ノ分割部分ニ限ラレタルトキハ前項ト同一ナリトス

第千七百九十一條　遺産者カ財産ノ或ル目的物カ設定セラレタルトキハ法律上ノ相続人ハ其目的物ヲ贈遺トシテ牧受シ法律上遺産相続ニ関スル成規ニ照準シ其贈遺ヲ以テ供給セラレタル可シト推認セラル

第千七百九十二條　若シ二人以上ノ相續人ノ設定セラレタル場合ニ於テ其内ノ一人ニテモ設定ヲ遺産ノ分割部分ニ限ラレタルニ止サルトキハ其相續人等ハ同一ノ分割部分ニテ設定セラレタルト看做サル可シ

第千七百九十三條　若シ二人以上ノ相續人ノ設定セラレタル場合ニ於テ其各個人カ遺産ノ分割部分ニ限リテ設定セラレ其分割部分カ全團ヲ超過スルトキハ分割部分ノ割合ニ應スル減殺カ行ハル

第千七百九十四條　若シ二人以上ノ相續人ノ設定セラレタル場合ニ於テ其各個人カ分割部分ノ全團ヲ居領スル無クシテ遺産ノ分割部分ニ限リテ設定セラレタルトキ其被設定者ハ単独ノ相續人タル可シトスル遺産者ノ意思ノ表顕スル限度ニ於テ自能ノ分割部分ニ関シテハ一定ノ分割部分ノ割合ニ應シテ設定セラレタリト看做サル可シ

第千七百九十五條　若シ二人以上ノ相續人ノ設定セラレタル場合ニ於テ一人又ハ二人ノ

相続人カ分割部分ノ全国ヲ居住スル為リシテ
遺産ノ分割部分ニ限リ設定セラレ他ノ一人又
ハ二人以上ノ相続人ノ設定カ分割部分ニ限ラ
レタルニ非サルトキハ為制限ニテ設定セラレタ
ル一人又ハ二人以上ノ相続人ハ自餘ノ分割部
分ニ限リテ設定セラレタリト推認セラルヘシ
然レトモ若シ分割部分カ全国ヲ居住スルトキハ尤
ノ程度所ヲ為制限ニテ設定セラレタル相続人
ノ若自ノ為メニハ最他額ノ分割部分ヲ以テ供
給セラレタル相続人ノ為メニ表顕スルト同一

ノ要宜ニ於ケル分割部分カ表顕スルノ程度ニ
於テ分割部分ノ割合ニ酷スル減殺カ開始ス
第千七百九十六條 若シ二人以上ノ相続人ノ
ニ三人カ遺産ノ同一ナル分割部分ニ付キ各同
シテ設定セラレタルトキ共通相続部分ハ其共通
相続部分ニ関シテハ第千七百九十二條乃至第
千七百九十五條ノ成規ヲ準用ス
第千七百九十七條 若シ二人以上ノ相続人カ
法律上ノ遺産相続ヲ除斥スルノ方法ニ於テ設
定セラレタル場合ニ於テ一人ノ相続人ニ関シ

相続人設定ノ無作用タリ若シ無作用ト雖ル
ハ自餘ノ相続人ハ廢缺スル相続人ノ牧受スル可
カリシ相続部分ニ関シテモ亦自己ノ相続部分
ノ割合ニ應シ設定セラレタルト看做サル可シ

増加部分

若シ廢缺スル相続人及ヒ他ノ相続人ノ一人又
ハ二人以上カ遺産ノ分割部分ニ付キ共通ノ相
続部分トシテ設定セラレタル時増加部分ハ先
ツ自餘ノ共通相続部分ヲ以テ供給セラレタル
者ノ害メニノミ関係ス

若シ設定セラレタル総テノ相続人カ分割部分
ノ全部ヲ居留スル無リシテ遺産ノ分割部分ニ
付キ設定セラレタル場合ニ於テ其被設定者等
カ単独相続人タル可シトスル遺産者ノ意思ノ
表顯セサルトキ其設定セラレタル相続人ノ一人
ノ廢缺スルニ於テハ増加部分ハ単ニ廢缺者及
ヒ其他ノ相続人等カ共通ノ相続部分ニ付キ設
定セラレタル限度ニ於テノミ関係ス

第千七百九十八條　増加部分ハ遺産者ニ於テ
之ヲ除斥スルヿヲ得増加部分ハ補充相続人ノ

設定ニ依リ左ノ程度ニ於テ補充相続人トシテ設定セラレタルニ因リ生スル推利ハ増加部分ニ推利ニ先行スルノ程度ニ於テ準用セラル

第千七百九十九條　増加部分ニ因リ設定セラレタル相続人ニ帰属スル相続部分ハ欠缺スル相続人又ハ増加部分ノ帰属スル相続人カ債務ヲ負担スル贈遺及ヒ年金義務ニ関シテハ特別ノ相続部分ナリト看做サル可シ

第千八百條　遺産者ハ先ツ設定セラレタル相続人ノ設定ノ為ニ用ヒタリ又ハ為ニ用ト為ル場合ノ為メ他人ヲ相続人トシテ設定スルヿヲ得

補充相続人

補充相続人ハ代リニ尚ホ他ノ補充相続人ヲ指名スルヿヲ得

第千八百一條　若シ其人カ先ツ設定シタル相続人カ相続人タルヿ能ハサル場合ノ為メ又ハ先ツ設定セラレタル相続人カ相続人タルヿヲ欲セサル場合ノ為メ補充相続人トシテ設定セラレタルヤ疑ヒノ存スルニ於テハ二個ノ場合ノ為メ設定セラレタリト推認セラル可シ

第千八百二條　若シ疑ヒノ存スルトキハ後嗣相続人トシテ設定セラレタル者ハ亦補充相続人トシテ設定セラレタリト推認セラル可シ

若シ補充相続人トシテノ設定カ意望セラレタリヤ又ハ後嗣相続人トシテノ設定カ意望セラレタリヤニ付キ疑ヒノ存スルトキハ補充相続人トシテノ設定ナリト推認セラル可シ

第千八百三條　若シ設定セラレタル二人以上ノ相続人カ互ノ為メニ補充相続人トシテ設定セラレタルトキ又ハ共同相続人ノ一人ノ為メニ自餘ノ共同相続人カ補充相続人トシテ設定セラレタルトキ疑ヒノ存スルトキハ相続人ニ於テハ相続人トシテ設定セラレタル関係ニ於テハ補充相続人トシテ設定セラレタリト推認セラル可シ

若シ第一ノ場合ニ於テ相続人等ノ二三人カ共通ノ相続部分ヲ收受スル可キヿ疑ノ存スルニ於テハ其相続人等ハ共通ノ相続部分ニ関シテハ他ノ相続人ニ先チ補充相続人トシテ設定セラレタリト推認セラル可シ

第三節　後嗣相続人ノ設定

第千八百四條　遺産者ハ或ル相続人カ左ノ方法即チ他人カ相続人ト告リタル後猶ホ一定ノ時点又ハ事故ノ起発シタル時ヨリ相続人タルヲ得後嗣相続人其時点又ハ事故ノ起発ト共ニ後嗣相続人ハ相続人タルヲ廃棄シ其遺産ハ後嗣相続人ニ帰属ス

第千八百五條　若シ遺産者カ左ノ條件即チ相続人ハ一定ノ時点又ハ事故ノ起発ト共ニ遺産ヲ他人ニ引渡スヘシトノ條件ヲ設ケタルトキハ其他人ハ後嗣相続人トシテ設定セラレタリト推認セラルヘシ

第千八百六條　若シ遺産者カ設定セラレタル相続人ニ對シ因孤独ノ汚名ヲ禁止シタルトキ其設定セラレタル相続人ノ法律上相続人ハ後嗣相続人トシテ設定セラレタリト推認セラルヘシ

第千八百七條　若シ相続人設定ニ解除ノ設若條件又ハ終止期日カ附加セラレタル場合ニ於

ニ遺産者カ何人ニ設差條件又ハ終止期日ノ延
長後遺産ノ帰属又可キヤヲ定メタルニ非サル
ハ遺産者カ設差條件又ハ終止起算ノ当時ニ
於テ死亡シタル可カリシナラハ遺産者ノ法律
上相続人タル可カリシ者カ法律上遺産相続ニ
関スル成規ニ照準シテ後嗣相続人トシテ設定
セラレタリト推認セラル可シ
第千八百八條　若シ相続人設定ニ停止設差條
件又ハ起算期日カ附カセラレタル場合ニ於テ
相続人カ設差條件又ハ期日ノ起算ニ至ルマテ

何人ノ相続人タル可キヤヲ定メタルニ非サル
ハ遺産者ノ法律上相続人カ先嗣相続人ナリ
トシテ指定セラレタルモノトス
前項ノ成規ハ相続ノ場合ノ当時ニ於テ未タ受
胎セラレサルモノカ相続人トシテ設定セラレ
タルハ又ハ某人即チ其人格カ相続ノ場合ノ後
起算スル事故ニ因リ始メテ定マル某人カ相続
人トシテ設定セラレタルハ之ヲ準用ス
第千八百九條　若シ遺産者カ後嗣相続人ノ設
定ノ際後嗣相続人ノ場合ヲ別段ニ規定

シタルニ非サルトキハ後嗣相続人ノ相続ハ先嗣相続人ノ死亡ト共ニ開始ス

第千八百十條　若シ設定セラレタル後嗣相続人カ遺産者ヨリ長生シタルモ後嗣相続ノ場合ノ当時現ニ生存シタルニ非サルトキハ後嗣相続人ノ権利ハ其相続人ニ移轉ス但若シ後嗣相続人カ後嗣相続ノ場合ノ当時現ニ生存セサル可キニ於テハ後嗣相続人ノ設定ノ無効用ト為ル可シト推認セラル可ラサル場合ニ限リ其移轉ノ場合ニ於テハ設定セラレタル後嗣相続人ノ遺産ノ或ル部分ナリト看做サル可シ

第千八百十一條　若シ遺産者カ未期喜思以外ノ他或ノ当時ニ於テ一モ子孫ヲ有セサル子孫ニ對シテ其死亡後ノ時間ノ為メ後嗣相続人ヲ定メタルトキハ此後嗣相続人ノ設定ハ先嗣相続人ノ一モ子孫ヲ遺留セサル可キ場合ニ限ラレタリト推認セラル可シ

第千八百十二條　後嗣相続ハ単ニ一回ノミ開始スルヿヲ得其後ノ後嗣相続人ノ設定ハ最初ノ後嗣相続ノ開始ト共ニ無効用ト為ル

第千八百十三條　先嗣相続人ノ死亡ノ場合ノ
為メニ果成シタルニ非サル後嗣相続人ノ設定
ハ若シ先嗣相続人ノ死亡シタル場合ニ於テ後
嗣相続ノ場合ノ開始前相続ノ場合ノ開始以来
三十年ノ時間ヲ経過シタルトキハ無効用ト為ル
第千八百十四條　後嗣相続人ノ権利ハ増加部
分ニ因リテ果成シタル先嗣相続人ノ相続部分
ノ擴弘ニ擴及スルモノトス補充相続人トシテ
ノ設定ニ依リ又ハ特先贈遺ニ依リ先嗣相続人
ニ属スルモノニハ擴及セサルモノトス

第千八百十五條　先嗣相続人ノ後嗣相続人ニ
對スル権利関係ニハ法律ニ依リ別段ノ事項ノ
表顕セサル限リハ用益権ニ付テノ成規ヲ左ノ
制限所ケ先嗣相続人ハ後嗣相続人ニ對シ用益
権利者ナリト看做サル可ントスル制限ヲ以テ
準用ス
第千八百十六條　用益権利者カ所有者又ハ其
人ニシテ其権利ニ付キ用益権ヲ
有スル者ト共同ニ於テノミ処分スルヲ得ル
限度ニ於テ先嗣相続人ハ後嗣相続人ノ同意又

ハ認諾ヲ得ルヿヲ要ス

後嗣相続ニ服スル相続部分ニ関シテハ先嗣相続人ニ於テ相続人ノ共同ノ廉罷ニ付キ有スル請求権ハ後嗣相続人ノ同意ヲ得ル無リシテ之ヲ行使スルヿヲ得

第千八百十七條　先嗣相続人ハ後嗣相続ニ服スル物ヲ第千一條ニ定メタル程度ニ於テ自己ノ利益並ニ後嗣相続人ノ利益ヲ保障ノ目的物メル方法ニ依リ保障ニ付スルノ義務ヲ負フ

保障金ノ徴收ニハ利息付キニテ未收入ノ後嗣相続ニ服スル債権ノ徴收ニ関スル成規ヲ適用ス

先嗣相続人並ニ後嗣相続人ハ保障金ヲ経済上便益ノ方法ニ於テ物ノ回復ノ為メ又ハ補充ノ造成ノ為メ支用セラルル可キヿヲ求ムルヲ得

第千八百十八條　若シ利息付キニテ未收入ノ債権カ後嗣相続ニ服スル目的物ニ属スルトキハ豫告ハ単ニ先嗣相続人ニノミ属スルモノトス其豫告ニ係ル後嗣相続人ノ同意ハ之ヲ要セス然レトモ後嗣相続人ハ若シ債権カ未タ満期ト為ラ

サルモ豫告スルヿヲ得可キ場合ニ於テ左ノ程
度即チ債權ノ徵收カ尋常家父ノ為ス注意ニ適
應スル程度ニ於テ債權ノ保全ヲ危殆ナラシム
ルトキハ先嗣相續人ニ對シ豫告ヲ求ムルヿヲ得債
務者ノ豫告ハ縱令單ニ先嗣相續人ニ對シテノ
ミ陳述セラレタルトキト雖モ亦効力ヲ有ス
第千八百十九條　利息付キ債權ノ滿期ト
為リタル債權ノ徵收權ハ單ニ先嗣相續人ニ屬
ス然レトモ先嗣相續人ハ債務者ニ對シテ單ニ先
ノ要求即チ自己ニ為ス債行告ハ後嗣相續人ノ
同意ヲ得タル後作用ヲ有スヿヲ又ハ債行告ノ
目的物ハ自己及ヒ後嗣相續人ノ為メ公ニ寄託
ス可シトスルノ要求ノヿヲ為スヿヲ得後嗣相
續人ハ若シ先嗣相續人カ自己ニ對シテ担保債
行告ヲ果成スルトキハ右ノ同意ヲ與フルノ義務
ヲ負フ保証人ヲシテスル担保債行告ハ陞付セ
ラルヽモノトス後嗣相續人ハ第千八百十八條
ニ依リ自己カ豫告ヲ求ムルノ權利ヲ有シタル
可カリシ豫定條件ヲシテ債權ノ徵收ヲ先嗣相
續人ニ對シテ要求スルヿヲ得

第千八百二十條　若シ利息付キニシテ未收ノ債
權ノ徵收セラレタルトキハ先嗣相續人ハ後嗣相
續人ニ對シ左ノ同意即チ元本ハ被後見人金財
ノ設用ノ爲メ現行ノ成規ニ照準シテ後嗣相續
人ノ權利ヲ保全シテ先嗣相續人ノ爲メ利息付
キニテ更ニ設用スヘキ爲メノ同意ヲ要求スル
コトヲ得又後嗣相續人ハ先嗣相續人ニ對シ左ノ
要求即チ先嗣相續人ハ前段ニ記載シタル方法
ニ於テ設用ヲ果成スヘシトスル要求ヲ爲スコ
ヲ得

前項ノ成規ハ若シ先嗣相續人ハ後嗣相續人ヲ
保全シテ債權ノ徵收ヲ果成シタルトキニモ亦之
ヲ適用ス

第千八百二十一條　後嗣相續ニ服スル目的物
ニ屬スル土地債務又ハ所有者抵当ニ債務ノ
爲メ現行ノ成規ヲ準用ス

第千八百二十二條　先嗣相續人ハ後嗣相續ニ
服スル旨記名証券又ハ株券ヲ後嗣相續人ノ要
求ニシト雖モ公ノ寄託所ノ保管ニ付シ又ハ事
情ノ許ス限リハ自己ノ名ニ書換ヘシムルノ義

務ヲ負フ其第一ノ場合ニ於テハ証書ノ呈出ハ
単ニ後嗣相続人ノ同意ヲ以テノミ之ヲ果スヿ
ルヿヲ得第二ノ場合ニ於テハ債権ノ徴収又ハ
書換ヘタル証書ヲ無記名証書ヲ以テ補充スル
ニハ単ニ後嗣相続人ノ同意ヲ以テノミ果スヿ
ルヿヲ得ルノ方法ニ於テスヿ可レ但無記名債券
又ハ株券ニ属スル利子票、年金票、利益持分票及
ヒ更新票ハ之ヲ除ク
先嗣相続人ハ証券ノ供託後ト雖モ満期ト為リ
タル元本額ノ徴収ノ為メ及ヒ新ナル利子票、年
金票、利益持分票及ヒ更新票並ニ新ナル債券ヲ
得ル為メ担当スル義務ヲ負フ若シ之カ為メ
供託シタル証券ノ呈出ヲ要スルトキハ後嗣相続
人ハ担保債行為ニ対シ証券ノ呈出ノ為メ先嗣
相続人ニ同意ヲ與フルヿヲ要ス保証人ヲ以テ
スル担保債行為ハ除外セラルヽモノトス徴収
シタル元本額ノ再投用ハ第千八百二十條ノ
成規ヲ適用ス
第一項及ヒ第二項ノ成規ハ消費物ニ関スル成
規ニ服スル証券ニハ一モ之ヲ適用セス

第千八百二十三條　後嗣相続ニ服スル目的物ノ秩序有ル管理殊ニ先嗣相続人カ後嗣相続人ニ對シ自己ニ担当スルヿヲ要セサル義務ヲ履行ノ為メ必要ナル次個ノ処分ノ為メ先嗣相続人ハ第千八百十五條乃至第千八百二十二條ノ成規ニ依リ後嗣相続人ノ同意ヲ待シテハ処分ヲ為スヿヲ許サレサルトキト雖モ権利ヲ有スレトモ第三者ニ對シ処分ノ効力ヲ主張スルトキハ第三者ノ求メニ依テ後嗣相続人ノ同意ヲ受クヿヲ可シ

前項ノ成規ハ第千八百二十二條第二項ノ場合ニハ一モ之ヲ適用セス

第千八百二十四條　遺産者ハ第千八百十五條乃至第千八百二十三條ニ掲ケタル権利ヨリ大ナル権利ヲ先嗣相続人ニ付與スルヿヲ得

第千八百二十五條　後嗣遺産ニ属スル目的物ト看做スヿヲ得キハ其目的物ノ果実トシテ先嗣相続人ニ属セサル限リハ先嗣相続人カ後嗣相続ニ服スル権利ニ因リテ取得シタルモノ又ハ先嗣相続人カ後嗣相続ニ服スル目的物ノ遺滅毀

横又ハ取奪ノ害メノ賠償トシテ取得シ若シハ後嗣相続ニ服スル目的物ノ後嗣相続人ニ對シテモ亦佃用ヲ有スル轉讓ニ因リテ取得シタルモノ又ハ先嗣相続人カ遺産ニ係ル地所ノ儲蔵品ニ編入シタルモノナリトス

第千八百二十六條　若シ先嗣相続人ノ害メニ後嗣相続ニ服スル権利ヲ地所臺帳ニ登記スルトキハ同時ニ聯権ヲ以テ後嗣相続人ノ権利ヲ登記スヘシ

後嗣相続人ハ先嗣相続人ニ對シテ左ノ要求ヲ所有先嗣相続人ハ其権利ノ後嗣相続ニ服スル分度ニ限リ之ヲ自己ノ害メ登記セシム可シトスル要求ヲ告スルヲ得

第千八百二十七條　若シ後嗣相続人カ未タ度旌セラレサル者ナルトキハ又ハ後嗣相続人ノ人格カ証明セサル事故ニ依リ始メテ定マルトキハ後嗣相続ノ間始前其後嗣相続人ノ代理ノ害メ管財人ヲ任定スヘキ程度ハ第千七百四十二條ノ成規ニ依リテ定マル

第千八百二十八條　若シ後嗣相続ニ服スル目的物ニ付キ先嗣相続人ノ処分ヲ害シタルトキハ其処分ハ後嗣相続人ノ権利ヲ無効ト為シ又ハ毀損スル分度ニ限リ後嗣相続ノ場合ニ於テ無位用ト為ルモノトス若シ権利者ヨリ権利ヲ收得シタル者ノ為メニスル成規ハ之ヲ準用ス

右処分ハ若シ第千八百十五條乃至第千八百二十四條ノ成規ニ依リ後嗣相続人ノ承諾ヲ以テ挙行スルヲ得ルトキハ無位用ト為ラサルモノトス

後嗣相続人ハ第二項ノ成規ニ依リ後嗣相続ノ場合ニ於テ無位用ト為ラサル処分ノ為メ同意又ハ認諾ヲ與フルノ義務ヲ負フ

第千八百二十九條　第千八百二十八條第一項ノ成規ハ後嗣相続ニ服スル目的物ニ関シ先嗣相続人ニ對シテ間接ニセラレタル強制執行又ハ押置執行ニモ亦之ヲ適用ス或ル目的物ニシテ其譲渡ヲ後嗣相続ノ場合ニ於テ無位用ト為ルモノハ先嗣相続人ノ財産ニ付テノ破産ニ於テモ亦先嗣相続人ニ對シテ間接ニセラレタル強制

執行ノ手続ニ於テモ之ヲ轉譲シ又ハ抵付スルヿヲ許サス

若シ遺産債権者ノ請求権又ハ後嗣相続ノ場合ニ於テ為効ト告ラサル権利ノ行使セラルヽトキハ権利追求ハ前項ニ掲ケタル制限ニ服セス

第千八百三十條　先嗣相続人ニ對シ相続人トシテ提起セラレタル請求権ニ付キ又ハ後嗣相続ニ服スル目的物ニ付キ第三者ト先嗣相続人トノ間ニ於ケル事訟ニ於テ裁下セラレ後嗣相続人ノ間然前ニ確定シタル判決ハ後嗣相続人ノ利ト為リ又ハ不利ト為ルノ作用ヲ生ス

第千八百三十一條　後嗣相続人ハ第千八百十九條第三段第千八百二十條第千八百二十二條第二項第千八百二十三條第一項及ヒ第千八百二十八條第三項ニ掲ケタル同意ヲ公認セラレタル法式ニ於テ與フルヿヲ要ス

第千八百三十二條　若シ遺産カ設定セラレタル後嗣相続人ヨリ辞退セラルヽトキハ先嗣相続人ハ後嗣相続ノ場合ノ間給シタルニ非スト看做スヿノ法ニ於テ仍ホ相続人タリ

後嗣遺産ノ辞退ハ遺産カ先嗣相続人ニ帰属シタルトキ直チニ果ス可キ

第千八百三十三條　相続ノ結果ニ於テハ混合ニ依リ消滅シタル債務ハ其ノ消滅シタルニ止マラス看做シ又相続ノ場合ノ結果ニ於テハ混合ニ依リ存続セラレタル物ニ付テノ権利又ハ権利ニ付テノ権利ハ之ヲ存続セラレタルニ止マラス看做シ又相場合ニ於テハ此ノ如キ権利ヲ回復スル可シ

第千八百三十四條　遺産ノ年シタル贈遺ハ遺産者ニ於テ別段ノ事項ヲ定メタルニ非サル限リハ先嗣相続人ト後嗣相続人トノ関係ニ於テハ遺産ノ負担ト看做サル可シ

利息又ハ其他ノ定期後帰スル債行為ヲ目的物トスル贈遺ニ関シテハ第千四十一條ノ成規ヲ準用ス

第千八百三十五條　後嗣相続ノ開始後遺産債権者ノ後嗣相続人及ヒ此相続人ノ債権者ニ対スル権利関係ニハ相続ノ場合ノ後遺産債権ノ先嗣相続人及ヒ此相続人ノ債権者ニ対スル権

利害関係ノ者ヲ標準ト為ル成規ヲ準用ス

第千八百三十六條　後嗣相続人ニハ後嗣相続ノ開始後遺産目録調製ハ尤ノ後嗣相続人ノ先嗣相続人ノ資格ニ於テ之ニ對シ自己ニ属スル遺産ヨリ生スル請求権ヲ併セ取得シタルモノハ遺産ニ代ハルノ制限ヲ以テ属スルモノトス

先嗣相続人ノ作成シタル財産目録ハ後嗣相続人自己ハ財産目録ヲ作成シタルニ非サルトキニモ亦後嗣相続人ノ利益ト為ルモノトス

第千八百三十七條　遺産義務ニ付テノ先嗣相続人ノ責任ハ後嗣相続ノ開始後ニ在テハ後嗣相続人ハ此遺産義務ニ付キ同一ノ範圍ニ於テ責任ヲ負担セサル分限ニ限リ仍ホ存立スルモノトス

先嗣相続人ハ後嗣相続ノ開始後ニ在テハ既ニ遺産ニ付テノ破産ノ開始ヲ求ムルノ権利ヲ有セス

第千八百三十八條　若シ先嗣相続人又ハ後嗣相続人ニ於テ遺産債権者ノ公示催告ヲ求ムル

ノ中ニヲ省シタルトキハ其中ニ及ヒ隆權ハ此両人ニ於テ共ニ中ニヲ省シタル可カリシトキニ於テルト同一ノ性質ニ於テ作用ヲ生ス

第千八百三十九條　若シ後嗣相続人ノ權利ヲ後嗣相続ノ開始ノ際遺産ノ計内ニ於テ剰餘タル可キモノニ限リタルトキハ第千八百二十八條ノ成規ハ単ニ贈與ニ於テ成ヲスル先嗣相続人ノ処分ニノミヲ適用ス又此成規ハ德義上ノ義務ニ依リ又ハ風紀上ノ反省ニ依リ正当ナル贈與ニ関シテハ之ヲ適用スルヿヲ隆ケセサル先嗣相続人ハ右ノ外遺産ニ属スル目的物ニ付キ事実上無限ニ処分シ並ニ生存者間ノ權利行為ニ依リ無限ニ処分スルノ權利ヲ有ス

第千八百四十條　先嗣相続人ノ後嗣相続人ニ對スル義務ハ第千八百三十九條ノ場合ニ於テハ第千八百二十六條ノ適用セラル可キヿヲ言スル無クシテ第九百九十三條、第千四十二條ノ照準シ遺産ニ属スル目的物ノ目録ヲ後嗣相続人ニ交付スルヿニ制限シ並ニ後嗣相続ノ開始ノ場合ニ在テハ第千八百二十五條ニ遵準シ遺

産ニ屬スルモノト看做スモノヲ除セ遺産ニ屬スル目的物ニシテ先嗣相続人ニ其侭仍ホ存在シタルモノニ限リ後嗣相続人ニ引渡スルヿト制限セラル又其目的物カケリは價額ニ於テ仍ホ先嗣相続人ニ存在シタル分度ニ限リ其價額ヲ賠償スルヿニ制限セラル但之カ為メ費用ノ賠償ヲ求ムルノ權利ハ喜セラル、ヿ無シ又贈與シタル目的物ハ呈出スヿ可キ義務ニ関シテハ贈與シタルニ非スト看做サル可シ然レは贈與シタル消費物ニ付テハ先嗣相続人ハ其贈與ノ当時ニ於ケル價額ヲ賠償スヿ可シ

第千八百四十一條　若シ遺産者カ左ノ條件ヲ附キ自ヲ先嗣相続人ハ遺産ニ屬スル目的物ニ付キ自由ニ処分スルノ權利ヲ有スヿ可シトスル條件ヲ為シタルは疑ヒノ存スルニ於テハ後嗣相続人ノ權利ハ後嗣相続ノ開始ノ際遺産ノ計内ニ於テ仍ホ剰餘タル可キモノニ限ラレタル可シト推認セラル可シ

第四節　贈遺

第千八百四十二條　若シ遺産者カ贈遺ヲ為シ

タルトキハ其相続人ハ遺産者ニ代テ別段ノ事項ヲ規定シタルニ非サル限リハ責務ヲ負担セシメラレタリト看做サルヘシ

第千八百四十三條　若シ二人以上ノ相続人又ハ二人以上ノ贈遺收受者カ同一ノ贈遺ヲ為スノ責務ヲ負ヒタルトキ疑ヒノ存スルニ於テハ二人以上ノ相続人ハ相続部分ノ割合ニ應シテ二人以上ノ贈遺收受者ハ之ニ贈寄セラレタル物ノ割合ニ應シテ責務ヲ負ヒタルヘシト推認セラルヘシ

第千八百四十四條　若シ遺産者カ相続人ニ對シテ遺産ニ属スル目的物ノ轉讓ヲ禁シ又ハ其ノ如キ目的物ニ付キ因死処分ヲ禁シタルトキハ其禁止ノ規定セラレタルニ因リテ利益ヲ被ムル其人又若シ其ノ如キ人ノ記載無キトキハ受禁相続人ノ法律上相続人カ受禁相続人ノ死亡後右目的物ヲ贈遺トシテ收受スヘシト推認セラルヘシ

第千八百四十五條　遺産者ハ相続人ニモ亦贈遺ヲ寄贈スルコトヲ得（特先贈遺）

特先贈遺ハ供給セラレタル相続人ト共同相續
人贈遺收受者、後嗣相続人及ビ遺産賣受人トノ
関係ニ於テハ供給セラレタル相続人自己ノ責
務ヲ負担シタル分度ト金モ控除ヲ有スルモノ
ト看做サル可シ
相続人ハ遺産ヲ辞退スルトキト金モ特先贈遺ヲ
謝受スルヿヲ得
第千八百四十六條　若シ二人以上ノ人カ同一
ノ目的物ヲ以テ贈遺ニ依リ供給セラレタルトキ
ハ第千七百九十二條乃至第千七百九十六條ノ
成規ノ準用ス
若シ債權又ハ代替物ノ數量カ贈遺ノ目的物ナ
ルトキモ亦二人以上ノ贈遺收受人ハ同一ノ目
的物ヲ以テ供給セラレタリト看做ス
第千八百四十七條　若シ贈遺ノ目的物ヲ造成
スル債行者モ遺産者ヨリ的確ニ明示セラレタ
ルニ非ス又其年月ニ依リ控出セラレサル可キ
トキハ贈遺ハ無効タリ
第千八百四十八條　遺産者カ自己ニ屬スルモ
ノトシテ贈遺收受者ニ贈寄シタル目的物ノ贈

遺贈ニ左ノ場合ニ於テノミ注用ヲ有ス

第一　目的物カ相続ノ場合ノ当時ニ於テ遺産者ニ属スル場合

第二　遺産者カ贈遺ノ年月ノ当時ニ於テ目的物ノ自己ニ属セサルヿヲ識知シタル場合

第三　相続ノ場合ノ当時ニ於テ目的物ノ債行為ニ係ル請求権ノ遺産者ニ属スル場合

但目的物ノ債行為ニ係ル請求権ノ場合ニ於テ其請求権ノ贈寄ヲ遺産者ニ於テ意望シタリト推認セラル可シ

其目的物ハ若シ遺産者カ其轉讓ノ義務ヲ負ヒタル中ニモ亦遺産者ニ属セサルト看做サル可シ

第千八百四十九條　若シ遺産者カ目的物ヲ自己ニ属セサルモノトシテ贈遺受遺者ニ贈寄シ又ハ目的物ノ自己ニ属セサルヿヲ識知シテ贈遺受遺者ニ贈寄シタル時ハ責務負担者ハ贈遺受遺者ニ其目的物ヲ供與スルノ義務ヲ負ヒ又若シ其供與ノ贈遺受遺者ニ對シ不可能ナル場合又ハ不相当ナル費用ヲ要スル可カリシ場合ニ於テ

テハ第二百二十條ニ準シ目的物ノ代償ヲ支拂ノ義務ヲ負フ但受贈者ト他ノ債行為ヲ贈寄スル遺産者ノ意思ノ表顯スルトキハ此限ニ在ラス

第千八百五十條　若シ遺産者カ贈遺收受者ニ其定セラルル目的物ヲ贈寄シタルトキハ遺産者カ其目的物ヲ自己ニ屬スルモノトシテ贈寄シタリト推定セラレ又若シ其目的物ノ自己ニ屬セサルトキハ其屬セサルヿヲ一モ識知シタルニ非サルヿヲ推定セラル

第千八百五十一條　第千八百五十條ニ屬スル目的物ノ贈遺ハ其目的物カ相続ノ場合ノ時ニ於テ遺産ニ屬スルトキニ限リ効用ヲ有ス

若シ目的物其モノニ非サル他ノ利益カ贈遺收受者ニ贈寄セラルヿアルトキハ遺産者ノ意思ノ表顯スルトキハ此利益ハ贈寄セラレタリト看做ス特ニ相続ノ場合ノ時ニ於テ受贈者ニ對スル目的物ノ債行為ニ係ル請求權ノ遺産者ニ屬スルトキハ此請求權ノ先責カ贈寄セラレタリト

看做ス

第千八百五十二條　第千八百四十八條乃至第千八百五十一條ノ成規ハ贈遺ニ依リ成ル目的物ニ付テノ權利ノ贈寄ノ年セラレタルトキ之ヲ準用ス

第千八百五十三條　若シ贈寄ニ依リ遺産ノ塡合ノ時ニ於テ不可能ナル差ノ法律ニ依リ禁止セラレタル債行為又ハ良風俗ニ悖戻セル債行為ノ贈寄セラレタルトキハ其贈遺ハ無効ナリ其債行為ノ不可能若シクハ禁止背反ノ塡合ニ於テハ第三百四十六條ノ成規ヲ準用ス

第千八百五十四條　贈遺ノ目的物タル物ハ若シ第千八百九十條乃至第千八百九十四條ニ掲ケタル種類ノ接着、混交、混和精製又ハ變造ヲ受ケタルトキハ消滅シタリト看做ス

第千八百五十五條　若シ遺産者ノ債權ハ贈遺ノ目的物ナルトキハ疑ヒノ存スルニ於テハ相続ノ塡合ノ時ニ於テ債權ニ應スル義務ノ履行セラレ其果成セラレタル目的物ノ尚ホ其所ニアル遺産中ニ存在シタルトキハ贈遺收受者ハ其果

成セラレタル目的物ヲ收得シタルヲ可シト推認
セラル可シ
第千八百五十六條　若シ贈遺收受者ニ贈與セ
ラレタル遺産者ノ債權ノ債務者カ相續ノ場合
ノ後遺産ニ對シテ自己ニ屬スル債權ト相殺
ニ依リ其債權ノ消滅ヲ目的成シタルトキハ其責務ヲ
免脱セル相續人ハ自己ノ利益ヲ得タル分度ト
限リ贈遺收受者ニ對シ損害賠償ヲ爲スノ義務
ヲ負フ
第千八百五十七條　相續ノ場合ノ当時ニ於テ
未タ死亡シタルニ止マル第三者ノ遺産又ハ此
ノ如キ遺産ノ分割部分ノ贈遺ハ無効ナリ
第千八百五十八條　第三者ノ遺産又ハ此ノ如
キ遺産ノ分割部分ノ贈遺カ作用ヲ有スルトキハ
第四百八十八條乃至第四百九十一條第四百九
十四條乃至第四百九十九條ノ成規ヲ準用ス然
分者ノ死亡前ニ收入シタル果實ノ引渡ニ關シ
及ヒ此ノ死亡ノ時点前ニ消費セラレ若クハ無
償ニテ轉讓セラレタル遺産ノ目的物ノ賠償ニ
關シテハ受統者ハ一切請求權ヲ有セス

第千八百五十九條　当然定マリタル物ノ贈遺ニ係リ其物ハ相続ノ開始ノ当時其現存シタル或ハ及ヒ現状ニ於テ其当時存在シタル附属物ト共ニ贈遺セラルル物ノ它指ノ贈遺ニ流リ相続ノ開始ノ当時ニ於テ它指物ニ属スル物ハ贈遺セラル

第千八百六十條　贈遺ニ流リ贈与セラレタル目的物ハ贈遺ノ履行ノ時ヲ基ヒテ使用貸借消費貸借ニ付セラレ又ハ用益貸借消費貸借ニ付セラレタルトキハ贈遺受遺者ハ使用貸借人又ハ用益貸借人ノ利益ノ為メ其責務負担者ノ利益ノ為メ遺産者カ履行ノ義務ヲ負担シタル可カリシ分度ニ限リ贈遺ノ履行後ノ時間ノ為メ使用貸借契約又ハ用益貸借契約ヲ履行スルノ義務ヲ負担セシメラレタルト推認セラル可シ

第千八百六十一條　若シ贈遺ニ流リ贈与セラレタル目的物ハ遺産ノ塡補ノ当時ニ於テ質権、土地清務又ハ其他ノ権利ヲ以テ負担ヲ帰セラレタルトキハ贈與受者ハ遺産者ノ別段ノ意思ノ表顕セサル限リ此ノ如キ負担ノ免除ヲ求

ムルヿヲ得ス

若シ遺産ノ塡合ノ時ニ於テ目的物ノ負担ヲ免除セラルヽヿヲ請求スル権ハ遺産者ニ属スルトキハ此請求権ハ贈遺受者ニ共ニ贈与セラレタリト看做サルヽ可シ

第千八百六十二條　若シ贈遺ニ依リ贈遺受者ニ二個以上ノ債行為ヲ左ノ方法ニ依テ附ケタルトキハ其内ノ孰レニテモ単ニ一個ノミノ果ス可シトスルノ方法ニ依テ贈与セラレタルトキ撰擇贈遺ハ第二百七條乃至第二百十二條ノ成規ヲ左ノ変例即チ若シ二個以上ノ債行為ノ内ニテ為ス可キ撰擇カ第三者ニ許サレタルトキ其贈遺ハ第三者ノ撰擇ニ依リ定ムル可キモノニ非スト看做サル可シ又若シ此ノ如キ場合ニ於テ第三者カ撰擇ヲ為スヿ能ハス若シハ撰擇スルヿヲ欲セス若シハ撰擇ノ遅延スルトキハ其撰擇ハ責務負担者ニ移轉スルヿト為スノ変例ヲ以テ適用ス

第千八百六十三條　若シ単ニ種類ニ依テノミ定マリタル物カ贈遺ノ目的物ナルトキハ第二百十三條第二百十四條ノ成規ヲ左ノ変例即チ撰

撰擇ヲ有スル責務負担者ハ贈遺收受者ノ情況ニ應スル物ヲ撰擇スヘキトスルノ例ヲ以テ遺用又ハ之ノ如キ物ハ若シ遺産者ヲ撰擇權ヲ贈遺收受者又ハ第三者ニ許シタルトキ並ニ撰擇セラル可シ此場合ニ於テハ撰擇權ニ関シテハ撰擇贈與ニ関スル民規ヲ準用ス

第千八百六十四條　若シ單ニ種類ニ於テノミ定マリタル物ヲ目的物ト為セル贈遺ニ在リテハ其撰擇ハ遺産ニ存スル物ニ限ル可シトスル贈遺者ノ意思ノ表顯スルトキハ撰擇贈遺ニ関スル民規ヲ遺用ス

第千八百六十五條　贈遺ニ依リテハ贈遺收受者ヲ為メ單ニ贈遺ノ目的物ノ債行為ニ付テノ債權ノミカ責務負担者ニ對シテ創設セラル贈遺ノ目的物トナル權利ノ贈遺收受者ニ直接ノ移轉ハ其權利ノ遺産ニ屬スルトキニモ亦同法セス

第千八百六十六條　若シ相続人ニ對シテ遺産者ニ屬スル請求權カ贈遺ノ目的物トナルトキ其債務関係ハ贈遺ニ関シテハ法令ニ別段ノ規定ナキ限リ

リト看做スヿヲ得ス

第千八百六十七條　贈遺請求権ハ贈遺收受者メ辭退ノ権利ヲ留保シ法律ニ依リ相続ノ場合ト共ニ既生ス贈遺ノ帰趨

既レモ其帰属ハ死ノ時期ト共ニ果成ス

第一　贈遺ニ停止ノ設若條件ノ附加セラレタル場合ニ於テ其設若條件ノ相続ノ場合ノ当時ニ於テ未タ成就セタルニ非サル件ハ其條件ノ成就ト共ニ果成ス

第二　若シ遺産ノ場合ノ当時ニ於テ受胎セラレタル者ハ其出生ト共ニ果成ス但人タリシ相続ノ場合ノ当時ニ於テ既ニ受胎セラレタル者ハ相続ノ場合ノ前既ニ出生シタリト看做サルヿ可シ

第三　若シ遺産ヲ以テ供給セラレタル者ノ人格ハ相続ノ場合ノ後始メテ起発スル事故ニ依リ定ロ件ハ此事故ノ起発ト共ニ果成ス

第二項ノ場合ニ於テハ相続ノ場合後ノ時ノ為

ノ第百三十三條、第百三十四條、第百三十八條ノ成規ヲ適用シ又若シ停止ノ設定條件ニ繫ラレタル場合ニ於テ贈遺收受者カ其設定條件ノ成就ノ時現ニ生存スルヿヲ要セストスル遺産者ノ意思ノ表顯スルトキハ第百三十二條ノ成規ヲモ亦適用ス

第千八百六十八條　贈遺ハ若シ贈遺收受者カ遺産者ヨリ長生シタルトキハ無効ニ帰ス

第千八百六十九條　停止ノ設定條件ノ附加セラレタル贈遺ニシテ責務負担者ノ死亡ト共ニ

帰屬セサルモノハ若シ其設定條件ノ成就スル前責務負担者及ヒ贈遺收受者ノ死亡シタル場合ニ於テ相続ノ場合以来三十年ヲ經過シタルトキハ無効ニ帰ス

若シ贈遺收受者カ相続ノ場合ノ当時ニ於テ未タ受胎セラレタル者ニ非サルトキハ又ハ贈遺收受者ノ人格ヲ有スル遺産ノ場合ノ後始メテ記載スル事故ニ依リ定マルトキ其贈遺ハ相続ノ場合以来三十年ヲ經過シ責務負担者ノ死亡シ又贈遺收受者ノ受胎セラレス若クハ贈遺收受者ノ因リテ

定スル可キ事故ノ事タリ起発セサルトキハ若シ他用タリ此所規ノ意義ニ於ケル責務負担者ト看做サル可キハ遺産者カ二人以上ノ人ヲ交互相次テ同一ノ贈遺ヲ以テ又ハ別異ナル贈遺ヲ以テ左ノ方法即チ其先行スル贈遺受者ハ後行スル者ノ利益ノ為メニ責務ヲ負担セラレタリトスル方法ニ於テ供給セラレタルトキナリトス又絡テ他ノ贈遺ニ関シテハ相続人ノ責務ヲ負担セシメラレタルニ依リ利益ヲ受クル贈遺受受者ナリトス

第十八百七十條　若シ二人以上ノ人カ贈遺ニ依リ同一ノ目的物ヲ以テ供給セラレタル場合ニ於テ其贈遺受者ノ一人ニ付キ贈遺ノ為ニ用タリ又ハ為ニ用トナルトキハ自能ノ贈遺受者ハ其負担シタル贈遺受者ノ受ヲ可カリシモノヲ以テ其贈遺ニ付キ此者等ニ属スル持分ノ割合ニ應シ供給セラレタリト看做サル可シ

贈遺増加

若シ負担スル贈遺受者及ヒ他ノ贈遺受者ノ一人若クハ二人以上カ同一ノ持分ヲ以テ共

同ニシテ供給セラレタル件（共同持分）ハ贈遺増加ハ先ツ単ニ共同ノ持分ニシテ供給セラレタル贈遺收受者ノ利益ノ為メニノミ関係ス

第千八百七十一條　贈遺増加ハ遺産者ニ於テ之ヲ除外スルヿヲ得

贈遺増加ハ遺産者カ贈遺トシタル目的物ニ付キ贈遺收受者ノ持分ヲ明示ニテ定メタルモ之レヲ為メ除外セラレス又贈遺増加ハ補充相続指定ニ依リ単ニ補充相続人ノ贈遺増加收受者ニ先行スル程度ニ於テノミ除外セラル

第千八百七十二條　同一ノ目的物ニシテ供給セラレタル贈遺收受者等ノ責務ヲ負ハシメラレタル贈遺及ヒ年金不義務ニ関シテハ増加シタル持分ハ特別ノ贈遺ト看做サルヿ

第千八百七十三條　贈遺收受者ハ贈遺ヲ未タ諾受シタルニ止マル間ハ辞退スルヿヲ得

諾受並ニ辞退ハ責務負担者ニ對シテ與フヿ可キ陳述ニ依リ果ス其陳述ハ相続ノ開始前ニ之ヲ與フルヿヲ得ス

遺産ノ譲受及ト辞退ニ関スル第二千二十八條第二項、第三項、第二千三十五條、第二千三十六條、第二千三十九條、第二千四十二條第一項、第二項、第一段、第二段及ト第二千四十三條ノ成規ハ贈遺ノ譲受及ト辞退ニ準用ス

贈遺受者ハ二個以上ノ贈遺ノ内ニテ其一ヲ譲受シ其他ヲ辞退スルヿヲ得

第千八百七十四條　若シ贈遺受者カ第二千四十五條ニ言ヘル相続失格ナルトキハ其贈遺ハ参酌用タリ第二千五十條ノ成規ハ之ヲ準用ス

第千八百七十五條　贈遺ノ参酌用ハ補充相続指定及ト贈遺増加ニ関スル成規ヲ害スル参ク シテ責務負担者ノ利益ト為ル

第千八百七十六條　贈遺ハ遺産者ノ別段ノ意思ノ表顕セサル限リハ責務負担者カ相続人又ハ贈遺受者ト為ラサルモ之レカ為メ参酌用ト為ル若シ贈遺ノ効力ノ仍ホ存スルトキハ先ツ負担ヲ負ハシメラレタル者ノ虧缺ニ応リ利益ヲ受クル者カ責務ヲ負ハレタリト看做サル可シ

若シ贈遺收受者ト責務ノ負ハシメラレタル場合ニ於テ贈遺ノ無治用タリ又ハ無治用ト雖トモ其贈遺ノ無治用ニ依リ利益ヲ受リタル者カ責務負担ニ付テハ單ニ贈遺收受者ノ責任ヲ負ヒタル可カリシト同一ノ程度ニ於テノミ責任ヲ負フ

第千八百七十七條　若シ贈遺收受者カ贈遺ノ責務ヲ負ハシメラレタルトキ其贈遺ノ履行ハ責務ヲ負ハシメラレタル贈遺收受者カ供給セラレタル贈遺ニ属リ生スル債行為ヲ為スノ

権利ヲ有スルニ至ル以前ニハ之ヲ為スヿヲ得ス

第千八百七十八條　遺産ニ属スル目的物ノ因リテ贈与セラレタル贈遺ヨリ生スル請求権ハ増殖及ヒ贈遺ノ帰属以来目的物ヨリ收獲シタル果実ヲモ包括ス但遺産者ノ別段ノ意思ノ表顕セサル分度ニ限ル

第千八百七十九條　若シ贈遺ノ目的物カ單ニ種類ニ因リテノミ定マリタル物ナルトキ其保任債行為ニ関シテハ轉讓シタル権利ノ保任債行

為ニ関シ及ヒ轉讓セラレタル物ノ欠缺ニ付キ
轉讓ノ義務ノ契約ニ因リテ生シタル場合ニ適
用スル所規ヲ準用ス
第千八百八十條　遺産ニ属スル目的物ノ贈遺
ノ場合ニ於テ責務負担者カ相続ノ場合以来其
目的物ニ付キ為シタル必要ナル支用ノ賠償ヲ
贈遺收受者ニ對シ求ムルヿヲ得其他責務負担
者カ相続ノ場合以来為シタル支用ノ賠償ヲ求
ムル請求権ハ各条件業務執行ニ関スル規則ニ
因リテ定マル

若シ贈遺ニ停止ノ設若條件又ハ起始期日ノ附
加セラレタルトキ責務負担者ハ其設若條件又ハ
期日ノ成就前ト目的物ニ付キ為シタル支用ニ
付キ贈遺收受者ニ對シ贈遺收受者ノ支用ニ因
リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ賠償ヲ要求
スルヿヲ得第九百三十六條第三項第九百九十
七條第九百九十八條第一項及ヒ第千三條第千
九條ノ所規ヲ準用ス
第千八百八十一條　若シ贈遺收受者カ贈遺收
受者カ贈遺又ハ指示義務ノ責務ヲ負担セシメ

ラレタルハ贈遺收受者ハ自己ニ贈寄セラレタル贈遺ノ謀受ノ後ト雖トモ自己ノ責務ヲ負担セシメラレタル債行為ヲ左ノ分度即チ自己ニ贈寄セラレタル贈遺ノ計内ヨリ受リルモノカ其債行為ヲ果成スルニ足ラサル分度ニ限リ拒却スルヿヲ得遺産目録推ヲ有スル相続人ノ扣除ノ抗辯ニ関スル成規ヲ準用ス

第千八百八十二條　若シ贈遺ニ依リ贈遺收受者ノ受クヘキ債行為カ相続人ノ遺産目録推ニ依リ又ハ遺産義務部分請求推ニ依リ又ハ第千八百八十一條ニ遺準シ贈遺收受者ニ於テ減縮セラレタルトキハ遺産者ノ別段ノ意思ノ表顯セサル限リハ贈遺收受者ノ負担セル責務ノ割合ニ應スル減殺カ開始ス

第千八百八十三條　遺産者ハ贈遺ノ益効ヲ又ハ益効ト為ル場合ノ為メ其贈遺ノ目的物ヲ他人ニ贈遺收受者トシテ贈寄スルヿヲ得第千八百條第二項及ヒ第千八百一條乃至第千八百三條ノ成規ハ之ヲ準用ス

第千八百八十四條　若シ遺産者カ贈遺ノ歸屬

後証書スル一定ノ時点若クハ事故ヨリ以後ニ於テ贈遺ノ目的物ヲ贈遺ニ依リ第三者ニ贈寄シタル時事後贈遺ハ第初ノ贈遺受遺者ノ責務ヲ負担セシメラレタリト看做サルル可シ

第千八百八十五條　事後贈遺ニハ第千八百九條第千八百十一條ノ成規ヲ準用シ又若シ遺産者カ贈遺受遺者ニ対シ贈遺ノ目的物ヲ譲渡若クハ其目的物ニ付キ因証処分ヲ為スコトヲ禁止シタル場合ニハ第千八百四十四條ノ成規ヲ準用ス

第五節　保証不義務

第千八百十六條　未期意思ノ保証不義務ニハ第千七百七十七條第一段第三段第千八百四十二條第千八百四十三條第千八百五十三條第千八百六十二條第千八百六十三條第千八百七十六條第一項及ヒ第千八百七十七條ノ成規ヲ準用ス

第千八百八十七條　遺産者ノ別段ノ意思ノ表顕セサル限リハ保証不義務ノ無償用ナルモ之レカ為メ保証不義務ヲ負ハシメラレタル者ニ為セ

ル贈与ノ行用ハ所ケラレス殊ニ係示義務ノ執行ノ不可能ト為ルトキニモ亦同一ナリ

第十八百八十八條　第三ノ権利ヲ有スル者ハ遺囑執行者、相続人若リハ其同相続人並ニ第不義務ヲ負ハシメラレタル者ノ債鍵ニ依リ利益ヲ受リル者ナリトス若シ其執行カ公ノ利益ニ係ルトキハ其執行ハ権限ヲ有スル官廳ニ於テモ亦之ヲ要求スルヿヲ得其権限ハ帝國法律ノ成規ノ欠缺スルトキハ若邦法律ニ依リテ定マル

第六節　遺囑執行者

第十八百八十九條　遺産者ハ未期意思ノ如何ニ依リ一名又ハ二名以上ノ遺囑執行者ヲ指名スルヿヲ得又遺産者ハ最初ニ指名シタル執行者カ其職ノ諾受前ニ於テ或ハ後ニ於テ債鍵スル場合ノ為メ又遺囑執行者ヲ指名スルヿヲ得

第十八百九十條　遺産者ハ遺囑執行者其人ノ定メヲ第三者ニ委付スルヿヲ得此定メハ此ノ如キ場合ニ於テハ第三者ヨリ遺産裁判所ニ對シ裁判所又ハ公証人ノ手続上ノ方式ニ於テ為

ス可キ陳述ニ依リテ里成ス

第千八百九十一條　遺囑執行者ノ指名ハ若シ遺産者ノ意思ニ依リ其職ニ就リ可キ時ニ於テ行為ヲ能カタリ又ハ行為能力ヲ制限セラレタルトキハ効力ヲ生ス

第千八百九十二條　遺囑執行者ノ職ハ被指名者カ其職ヲ諾受スル時迄ヲ以テ始マル

右ノ職ノ諾受並ニ拒却ハ相続ノ場合ノ後被指名者ヨリ遺産裁判所ニ對シテ為ス可キ陳述ニ依リテ里成ス其拒却ハ之ヲ取消スヿヲ得ス設若條件又ハ時間設定ヲ付加シテ為シタル陳述ハ効力ヲ生ス

当事者ノ中ニ依リ被指名者ハ遺産裁判所ニ於テ定ム可キ期間内ニ自己カ其職ヲ諾受スルヤ若シクハ拒却スルヤヲ陳述ス可シ若シ其期間内ニ一定ノ陳述ヲ為サヽルトキハ其職ハ拒却セラレタリト看做ス

第千八百九十三條　二人以上ノ遺囑者ハ單ニ共同ニ於テノミ行為ヲ為スヿヲ得

若シ二人以上ノ遺囑執行者ノ一人ノ缺缺シタ

ルトキ其職務後ノ時ニ関シテハ指名セラレタルニ非スト雖故サルヲ可シ

第一項及ヒ第二項ノ成規ハ軍ニ遺産者ニ代テ別段ノ事項ヲ命シタルニ非サル限度ニ於テノミ之ヲ適用ス

第千八百九十四條　遺囑執行者ノ職ハ若シ遺囑者カ死ニシ又ハ行為無能力ヲ制限セラルルトキハ消滅ス

第千八百九十五條　遺囑執行者ハ遺産裁判所ニ對シテ告ス可キ陳述ニ依リ何時ニテモ其職ノ辭止豫告ヲ告スルコトヲ得第五百九十八條第二項第三項ノ成規ハ之ヲ準用ス

第千八百九十六條　遺囑執行者ハ若シ場合ノ情況ニ依リ辭職スルニ正当ナル重要ノ事由ノ存スルトキハ当事者ノ申立ニ依リ遺産裁判所ヨリ預メ訊問ヲ受ケタル後其職ヲ辭カルヽヿ有リ殊ニ此ノ如キ事由ノ存スルト推認セラルル可キハ遺囑執行者太甚ナル義務毀損ノ責ヲ怠ラシタルトキ又ハ遺囑執行者カ秩序有ル業務執行ノ不耐能ト為リタルトキナリトス

第千八百九十七條　遺囑執行者ハ遺産者ノ未
期意思ノ如ク之ヲ実行スルノ権利ヲ有シ及ビ相続
人ニ對シ其実行ノ義務ヲ負フ若シ相続人カ贈
遺又ハ廃示義務ノ執行ニ對シ異議ヲ起ストキハ
遺囑執行者ハ相続人ニ對シテハ相続人ノ帰責判
決ヲ受ケ其判決ノ確定スル迄執行ヲ中止スル
ノ義務ヲ負フ
若シ遺産者カ総テノ遺産負担義務ヲ履行スル
ニ不足スルトキハ遺囑執行者ハ相続人ニ對シテハ贈
遺又ハ廃示義務ノ執行ヲ単ニ相続人ノ同意ヲ
得テノミ果成スルノ義務ヲ負フ
遺囑執行者ハ相続人ニ對シ贈遺執行ノ許可ヲ
求ムル訴ハ作ナセラル
第千八百九十八條　若シ二人以上ノ相続人ノ
存スル場合ニ於テハ遺囑執行者ハ遺産者カ遺
囑執行者ニ依ル分別ヲ年ニ又ハ分別ニ関スル
特別ノ廃示ヲ為シタルトキニ限リ遺産ニ関シ共
同相続人等ノ分別ヲ果成スルノ権利ヲ有シ及
ビ相続人等ニ對シ其果成ノ義務ヲ負フ
遺囑執行者ハ自己ノ負担ニ帰スル分別ヲ第ニ

千五十一條乃至第二千六十四條ニ準シテ果ス
ヘキ又遺囑執行者ハ遺産者ノ年齢ニ応シ其
同相続人ノ一人ニ自餘ノ共同相続人等ノ轉付
スヘキ遺産ノ目的物ヲ此一人ノ共同相続人ニ
轉付スルノ権利ヲ有ス
遺囑執行者ハ若シ別ノ目的トスル自己ノ年
齢ヲ相続人等ニ通知シ又相続人ニ對シ異議ヲ
記スヘキ旨ノ期間ヲ定メ又此期間ハ遺囑執
行者ニ對シ異議ノ通知無リシテ経過シ若クハ
正当時期ニ記サレタル異議カ薄弱シタルトキ
限リ相続人等ニ對シ右ノ年齢ヲ実行スルノ義
務ヲ負フ
異議ノ薄弱ヲ目的トスル訴ハ単ニ異議スル相
続人ヨリ他ノ相続人等ニ對シ又ハ他ノ相続人
等ヨリ異議スル相続人ニ對シテノミ之ヲ起ス
コトヲ得遺囑執行者ニ於テモ相続人等ニ於テモ
互ニ對シ其訴ヲ起スコトヲ得ス
遺囑執行者ノ年齢カ遺産者ノ年齢ニ對スル異議ハ其年齢カ遺
産者ノ年齢ニ拠ル又ハ法律上ノ成規ニ拠ル
又ハ見込ニ依リテ定マルヘキ限度ニ於テ推

宜ニ拘束スル時ニ限リ理由有ルモノトス

第百ノ執行ハ第三項ニ掲ケタル期間ノ結果若シクハ満了シタル後始メテ果ス可キモノトス

其執行ニ依リ果議ヲ中止スル ノ権利ハ除外セラレス

第千八百九十九條 遺囑執行者ハ遺産ニ属スル物ヲ自己ノ所持ニ移メ遺産ヲ確定シ及ヒ管理スルノ権利ヲ有シ及ヒ相続人等ニ對シ義務ヲ負フ遺囑執行者ハ遺産債権ヲ徴收シ及ヒ遺産ニ属スル権利ヲ行使シ殊ニ訴訟ノ手続ニ於テ行使スルノ権利ヲ有シ及ヒ遺産ニ對シ秩序有ル管理ノ為メ必要ナル限度ニ於テ義務ヲ負フ

第百一 遺産ニ對シ義務ヲ負フ相続人ハ遺産義務ヲモ亦履行スルノ権利ヲ有シ及ヒ秩序有ル管理ノ為メ必要ナル限度ニ於テ相続人等ニ對シ義務ヲ負フ

贈遺又ハ寄示義務ニ依リ成立スルニ非サル遺産義務ノ履行ニ関シテハ第千八百九十七條併ニ項乃至第四項ノ成規ヲ準用ス

第千九百條 第千八百九十七條乃至第千八百

九十九條ニ掲ケタル場合ヲ除クノ外遺囑執行
者ハ若シ秩序有ル管理ノ為メ又ハ遺産義務ノ
履行ノ為メ必スル金銭ノ收得ノ為メ必要ナル
ト キニ限リ遺産ニ属スル目的物ニ付キ処
分ヲ為スノ権利ヲ有ス
相続人ハ第千八百九十七條第二項及ヒ第千八
百九十九條第二項ニ掲ケタル異議ノ権利ヲ留
保シテ右ノ処分ニ自己ノ同意若クハ認諾ヲ與
フルノ義務ヲ負フ
第千九百一條　相続人ハ遺産ニ属スル目的物
ニ付キ遺囑執行者ハ職ノ存スル間其目的物ニ付
キ有効ニ処分スルヿヲ得ス
第千九百二條　遺囑執行者ハ遺産ニ属スル目
的物ニ付キ処分ヲ為スノ権利ヲ有シ又此ノ如
キ処分ヲ為スノ義務ヲ引受ツル限度ニ於テ又
ハ秩序有ル管理ヲ為メ義務ヲ取結フヿノ
必要ナル限度ニ於テノミ義務ヲ取結フノ権利
ヲ有ス　相続人ハ遺産目録権ニ関スル成規ヲ害
スル恐リアリテ此ノ如キ義務ノ取結ニ依リテ義
務ヲ負担ス

第千九百八十二項ノ成規ハ之ヲ準用ス

第千九百三條　遺産ニ關スル權利ノ因リテ行使セラルヽ爭訟ヲ起ス為メニハ第千九百一條ニ依リ此權利ニ付キ相續人ノ処分權ノ除外セラレタル間單ニ遺囑執行者ノミカ相續人ノ法律上代理人トシテ權利ヲ有ス

遺産義務ノ因リテ行使セラルヽ爭訟ハ相續人等ニ對シテ提起セラルヽ可シ

第千九百四條　遺産ニ關スル目的物ニ對スル強制執行ノ為メニハ相續人ニ對シ執行セラル可キ名義カ必ス又之ヲ以テ足レリトス然レトモ遺囑執行者ノ所持内ニ存スル物ニ對スル強制執行ノ為メニハ其強制執行ニ依リ所持ノ差押セラル可カリシ限リハ相續人ニ對シ執行セラル可キ名義ノ外尚ホ強制執行ノ許可ニ依リ遺囑執行者ニ對シ執行セラル可キ名義カ必要ナリトス

遺囑執行者ハ強制執行ニ對シテハ之ニ因リ遺産義務ノ履行ノ責セラル可カリシ分度ニ限リ異議ヲ起スノ權利ヲ有ス但其執行カ遺産義務

ノ為メ罪戒シタル場合ハ此限ニ在ラス

第千九百五條　遺囑執行者ノ権利ニ関スル成規ハ其権利ノ内ノ動レニテモ其全部若クハ一分執行者ニ属セサル可シトスル遺産ノ意思ノ表顯スル分度ニ限リ一モシクハ適用セス

第千九百六條　遺囑執行者ハ遺産者カ別段ノ条件ヲ為シタルトキ並ニ相続人ニ對シ遺産ニ属スル目的物及ヒ遺産義務ノ目録ヲ交付シ並ニ遺産目録権ヲ執行スル為メ其他必要ナル補佐ヲ為スノ義務ヲ負フ

相続人ニ交付スヘキ目録ハ遺囑執行者ノ署名及ヒ日付ヲ備フヘシ並ニ相続人ノ求メニ依リ其費用ニテ公認ヲ受クヘシ相続人ハ亦目録ヲ自己ノ費用ニテ作成スヘキ権限ヲ有スル官吏ニ依リ自己ノ費用ニテ作成スヘキヿヲ求ムルヲ得

第千九百七條　遺囑執行者ハ遺産者ノ未期意思外ノ実行ノ為メ遺産ノ目的物ヲ要セサル分度ニ限リ此実行ノ前既ニ遺産者ニ對シ其求メニ依リ任意処分ノ為メ遺産ノ目的物ヲ交付

スルノ義務ヲ負フ又遺産ノ目的物ニ関スル相続人ノ処分ニシテ遺産者ノ生期意思処分ノ成行ヲ害セサルモノヽ為メニモ亦自己ノ同意又ハ認諾ヲ與フルノ義務ヲ負フ又遺嘱執行者ハ設差仲又ハ期間設定ヲ附セラレタル贈遺及ヒ年不義務ト雖モ若シ相続人カ此ノ如キ贈遺及ヒ年不義務ノ執行ノ為メ担保債行為ヲ果成スルトキハ其贈遺及ヒ年不義務ヲ理由トシテ遺産ノ目的物ノ引渡ヲ拒却スルヿヲ得ス

第十九百八條　遺嘱執行者ノ責ニ帰スル業務ニ関シ遺嘱執行者ト相続人トノ間ニ於ケル関係ハ第五百八十八條乃至第五百九十五條第六百一條第二項及ヒ第六百三條ノ成規ヲ準用ス

遺嘱執行者ハ相続人ノ求メニ応シ毎年計算ヲ為シ了ス可シ計算為ノ義務ハ遺産者ニ於テ未期意思処分ヲ以テ之ヲ除外シ又ハ制限スルヿヲ得ス

第十九百九條　遺嘱執行者ハ遺産者カ別段ノ年限ヲ告シタルニ非サル限リハ自己ノ業務担